

H3C インテリジェントマネジメントセンター
SQL Server2012
インストールとコンフィギュレーションガイド

New H3C technologies Co.,Ltd.

<http://www.h3c.com>

ソフトウェアバージョン:IMC PLAT7.3(E0706)

Copyright(C)2015-,New H3C Technologies Co.,Ltd.およびそのライセンサ 2021 All Rights Reserved.

本書のいかなる部分も、New H3C Technologies Co.,Ltd.の書面による事前の同意なしに、いかなる形式または手段によっても複製または変更することはできません。

商標

New H3C Technologies Co.,Ltd.の商標を除き、本書に記載されているすべての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

注意

本書に記載されている情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントに記載されているすべての内容(記述、情報、推奨事項を含む)は、正確であると考えられますが、明示的であるか黙示的であるかを問わず、いかなる種類の保証もなく提供されています。H3Cは、本書に含まれている技術的または編集上の誤りまたは脱落に対して責任を負わないものとします。

内容

iMC での SQL Server2012	1
インストールの準備	2
NET Framework3.5 のインストール.....	2
Windows ファイアウォールを無効にする	3
SQL Server2012 のインストール.....	5
SQL Server ライセンスの登録	23
SQL Server クライアントのインストール	25
インストール手順.....	25
接続性のテスト.....	31
SQL Server2012 の構成	33
TCP/IP プロパティの構成.....	33
SQL Server の最大サーバーメモリーの変更.....	35
SQL Server ブラウザサービスの起動.....	37
SQL Server サービス起動アカウントの変更.....	39
SQL Server サービスの再起動.....	40
スーパーユーザーの作成.....	41
SQL Server2012 のアンインストール	45
よくある質問	46

iMC での SQL Server2012

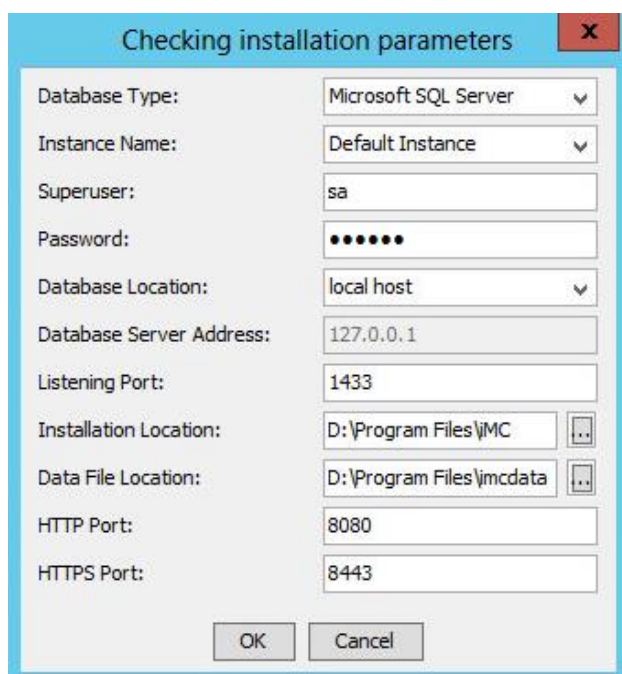
iMC をインストールする前に、iMC データの保存に使用するデータベースサーバーに SQL Server をインストールするか、iMC をインストールするサーバーに SQL Server をインストールしてください。

このドキュメントでは、Microsoft SQL Server2012 のインストールおよび構成手順について説明します。iMC 用のデータベースの使用の詳細については、H3C iMC デプロイメントガイドを参照してください。

データベースを別のデータベースサーバーにインストールする場合は、次のガイドラインに従ってください。

- iMC をインストールする前に、SQL Server クライアントを iMC と同じサーバーにインストールします。クライアントのバージョンは、SQL Server データベースのバージョンと一致する必要があります。
- データベースサーバーで、iMC データを格納するファイルフォルダーを作成します。図1に示すように、iMC のインストール中にフォルダーへのローカルパスを指定する必要があります。

図1 iMC インストール時の Database Configuration ダイアログボックス



Field	Value
Database Type:	Microsoft SQL Server
Instance Name:	Default Instance
Superuser:	sa
Password:
Database Location:	local host
Database Server Address:	127.0.0.1
Listening Port:	1433
Installation Location:	D:\Program Files\iMC
Data File Location:	D:\Program Files\imcdata
HTTP Port:	8080
HTTPS Port:	8443

注:

Microsoft SQL Server ライセンスのインストールソフトウェアを使用してください。ローカライズされたソフトウェアやその他の未承認のエディションは、データベースのインストールと操作に失敗する可能性があります。

インストールの準備

SQL Server をインストールする前に、サーバーをインストールするコンピュータで次のタスクを実行します。

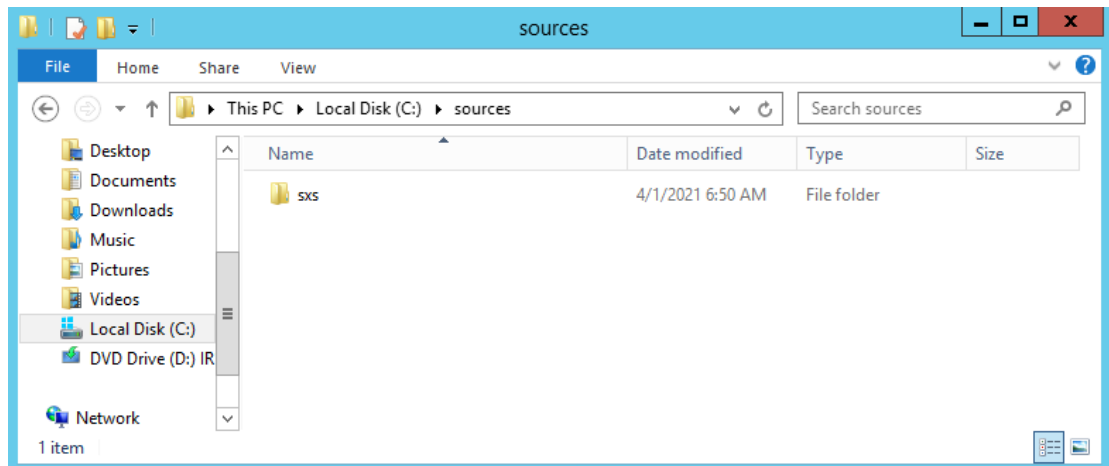
- SQL Server2012 に必要な .NET Framework3.5 をインストールします。デフォルトでは、.NET Framework3.5 は Windows Server2012R2 にインストールされません。
- TCP ポート 1443 を開くには、Windows ファイアウォールを無効にします。既定では、Microsoft Windows は Windows ファイアウォールが有効になっております。Windows ファイアウォールはポート 1443 を閉じて、インターネットコンピュータが SQL Server の既定のインスタンスに接続できないようにします。

NET Framework3.5のインストール

次の手順では、.Net Framework3.5 を Windows Server2012R2 にインストールする方法について説明します。

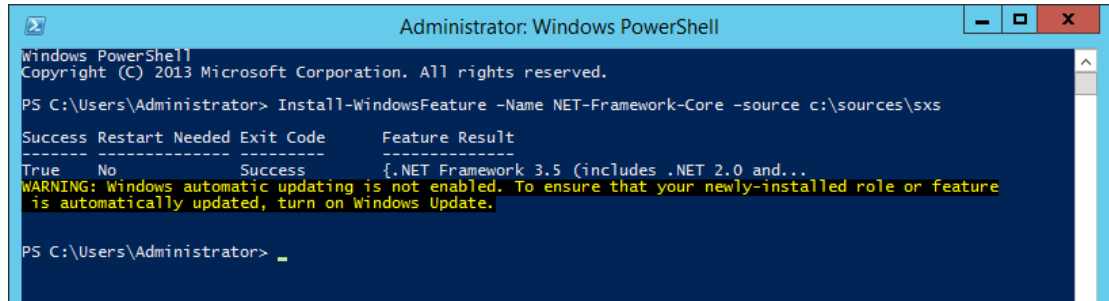
1. 図2に示すように、Windows Server2012R2 インストール CD または ISO イメージ内の sources/sxs フォルダをディスクパーティション(ドライブ C など)のルートディレクトリにコピーします。

図2 sources/sxs フォルダをコピーする



2. 次のコマンドを実行して、Windows PowerShell を管理者として実行します。
インストール-WindowsFeature-Name NET-Framework-Core-source c:\sources\sxs
c:\sources\sxs はコピーしたフォルダのパスです。必要に応じてパスを編集します。
図3に、インストール結果を示します。

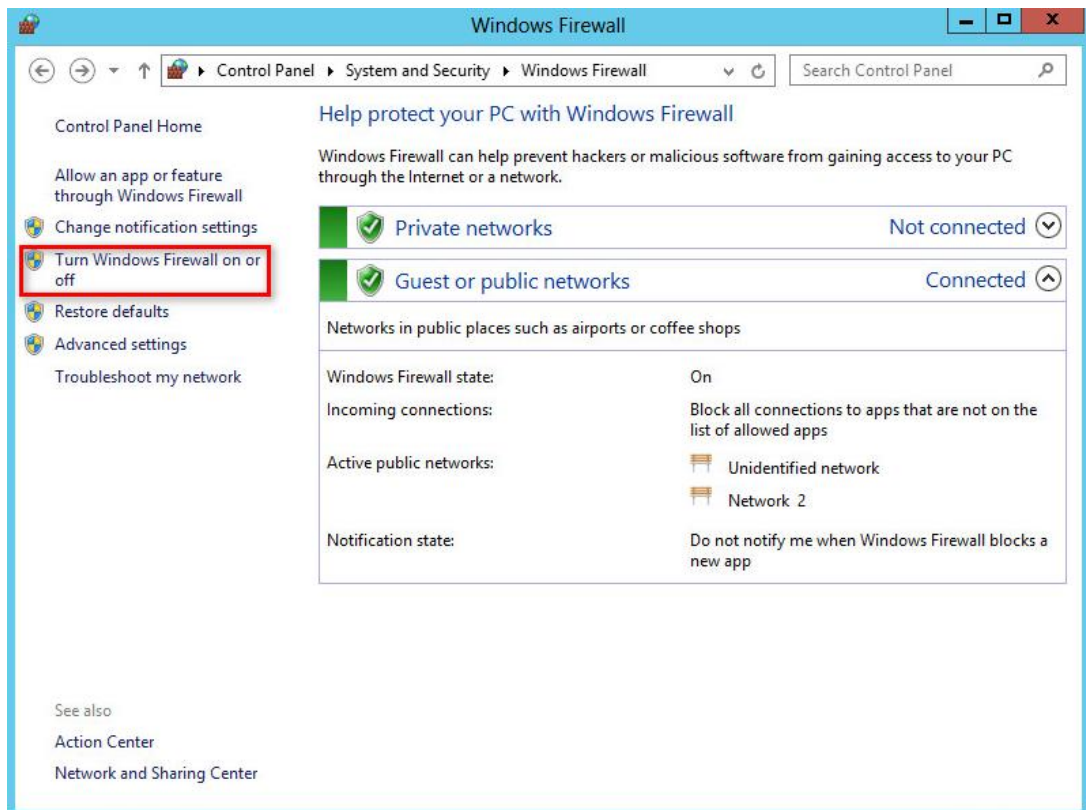
図3 インストール結果



Windowsファイアウォールを無効にする

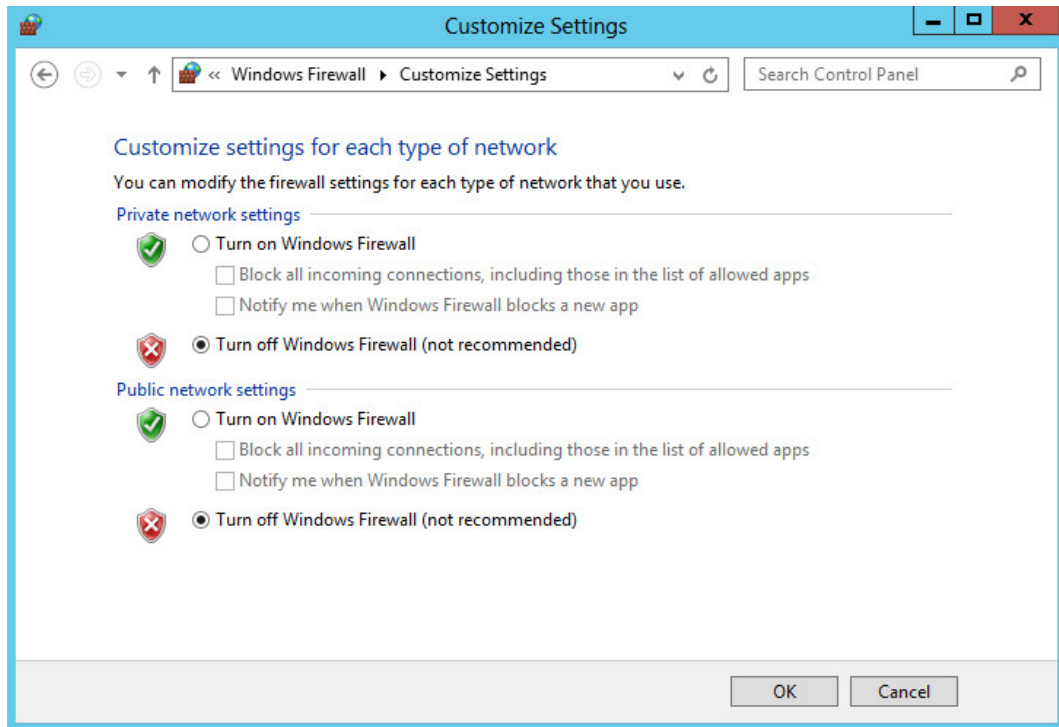
1. スタート > コントロールパネル > システムとセキュリティ > Windows ファイアウォールを選択します。Windows ファイアウォールページが開きます(図4を参照)。

図4 Windows ファイアウォールページ



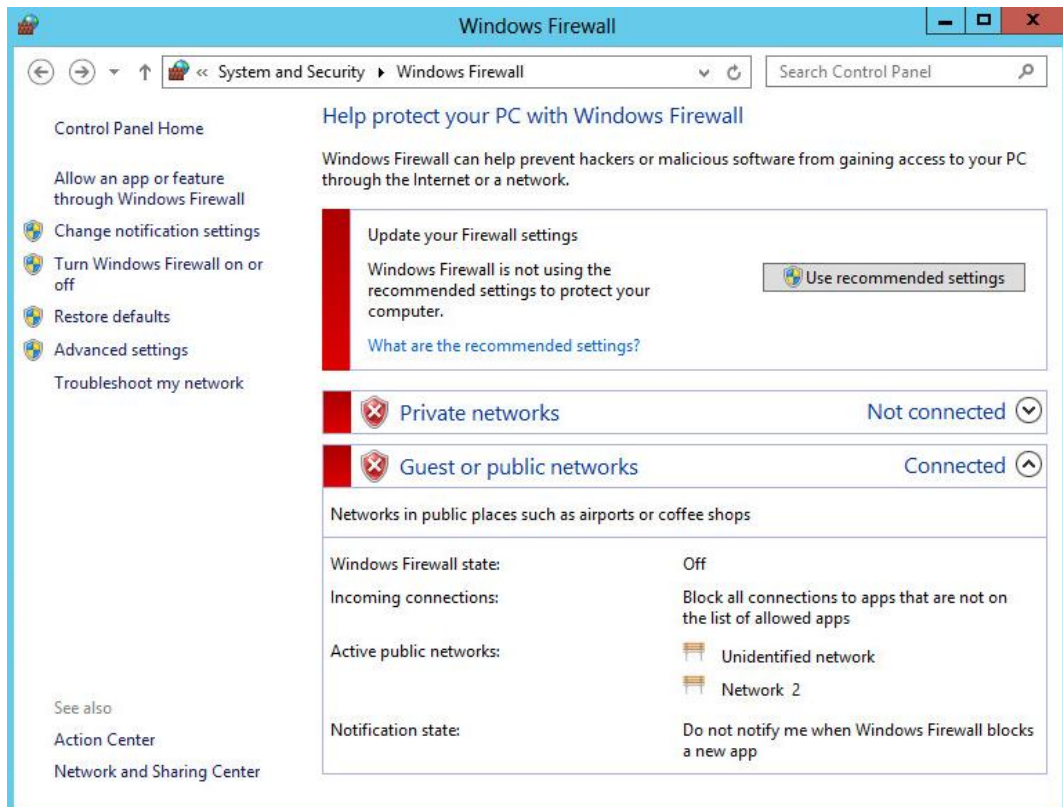
2. Windows ファイアウォールを有効または無効にする、を選択します。Customize Settings ページが開きます(図5を参照)。

図5 Customize Settings ページ



3. ホームネットワークまたは職場(プライベート)ネットワークの場所の設定とパブリックネットワークの場所の設定の両方でWindowsファイアウォールを無効にする(非推奨)を選択し、OKをクリックします。

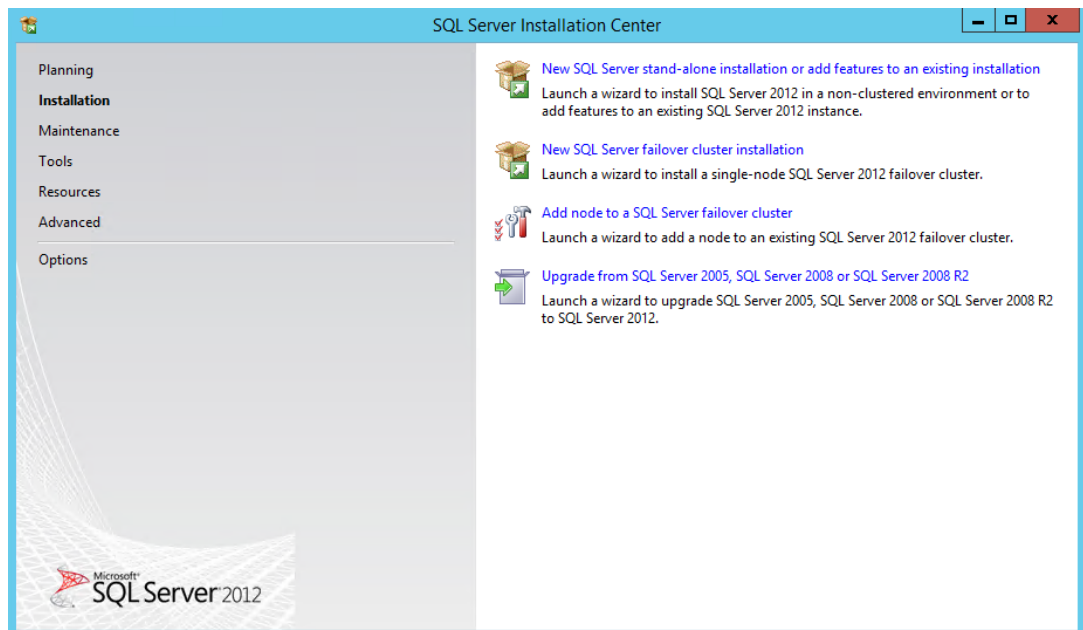
図6 Windows ファイアウォールを無効にする



SQL Server2012 のインストール

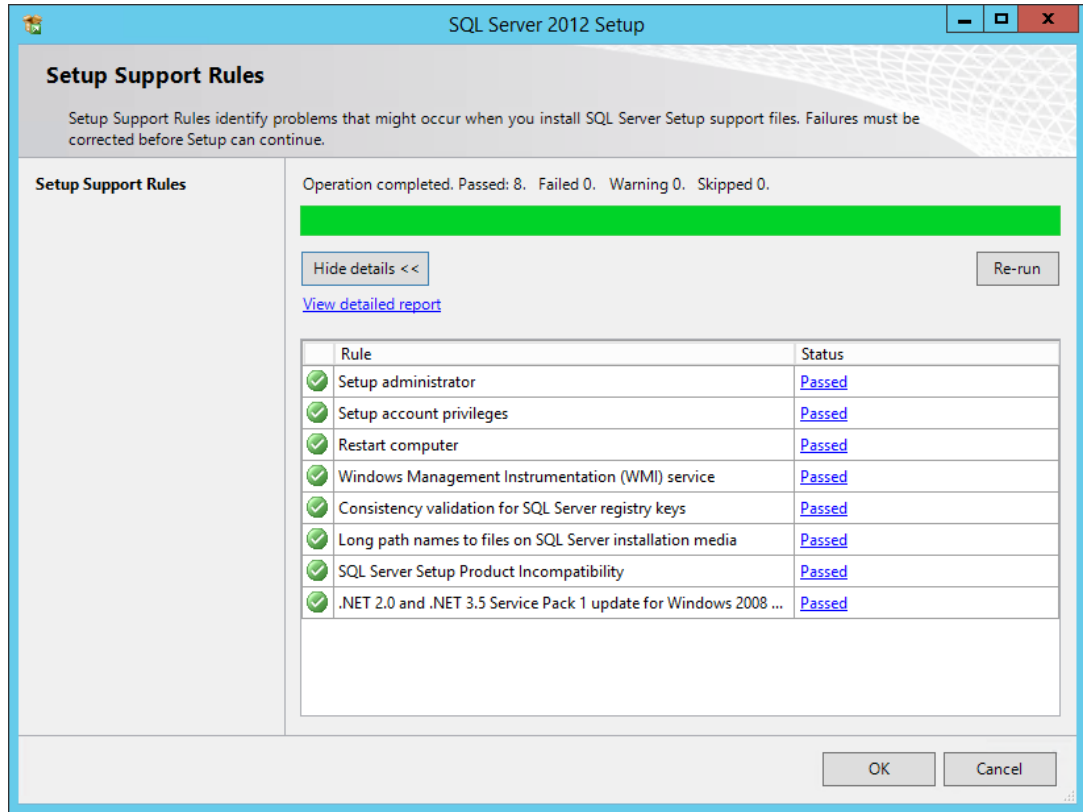
1. インストールプログラムを実行します。
SQL Server Installation Center ウィザードが開きます(図7を参照)。

図7 SQL Server Installation Center ウィザード



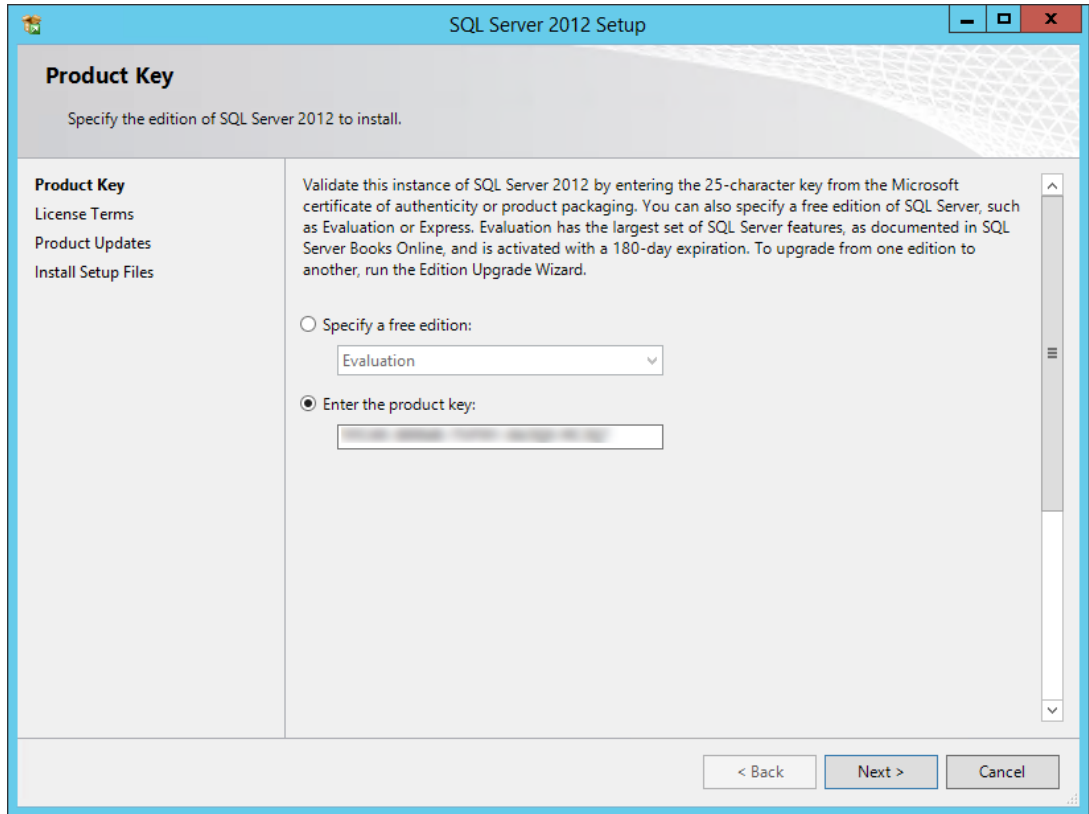
2. ナビゲーションツリーでインストールを選択し、新規 SQL Server スタンドアロンインストールを選択するか、既存のインストールに機能を追加します。
Setup Support Rules ページが開きます(図8を参照)。
SQL Server セットアップサポートファイルのインストール時に発生する可能性のある問題を特定するために、システムによってチェックが実行されます。

図8 Setup Support Rules ページ



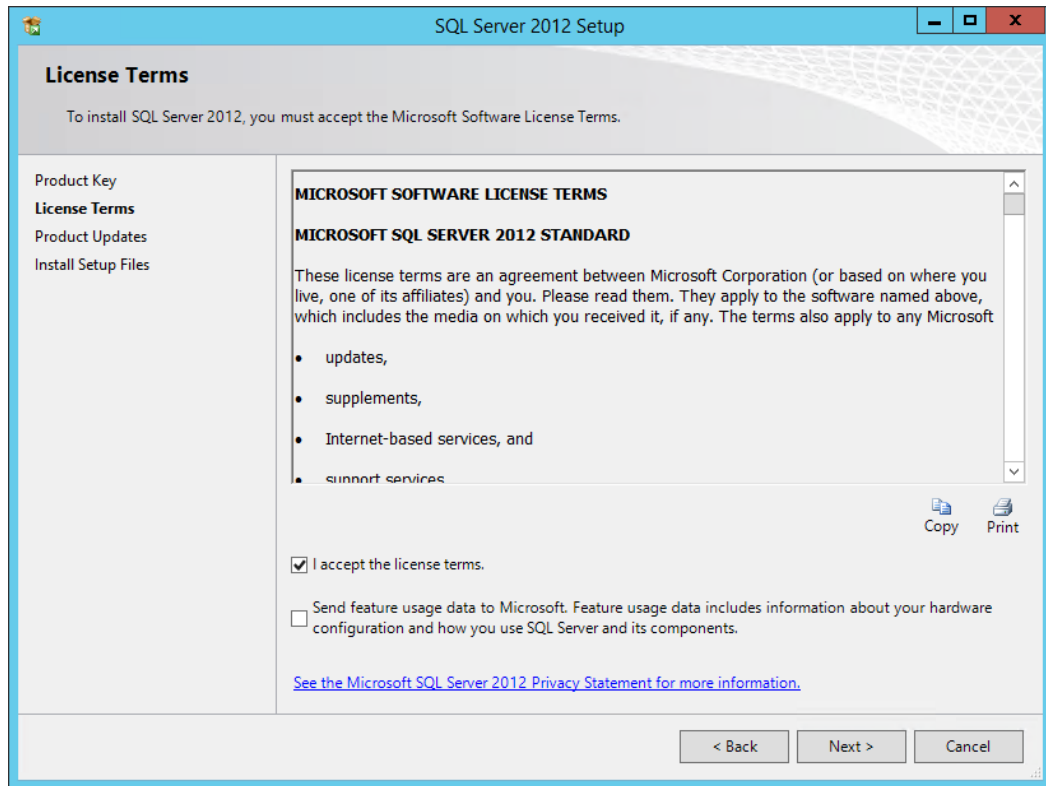
3. チェックが完了したら、OK をクリックします。
プロダクトキーページが開きます(図9を参照)。

図9 プロダクトキーページ



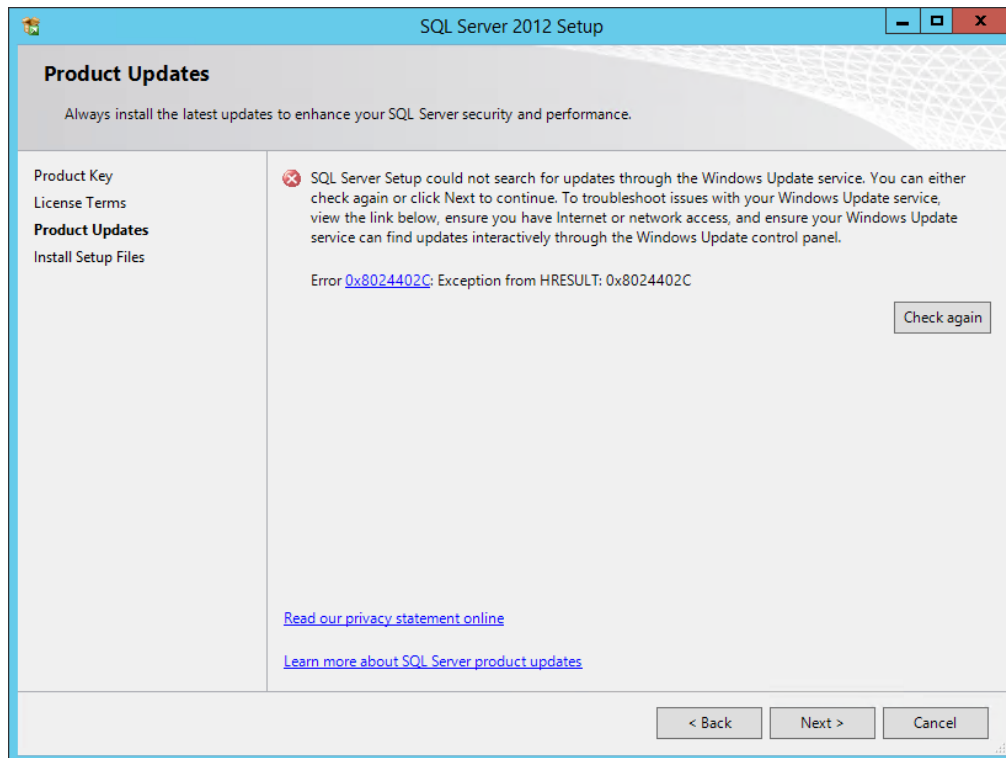
4. プロダクトキーを入力し、次へ、をクリックします。
License Terms ページが開きます(図10を参照)。

図10 License Terms ページ



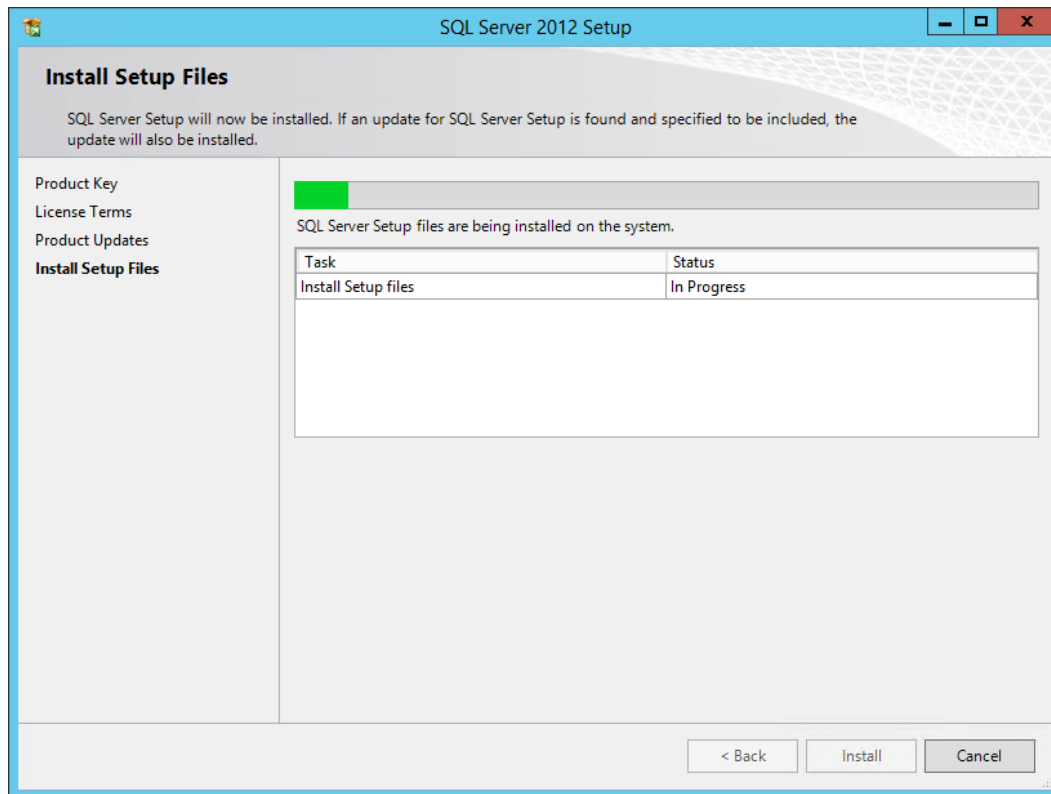
5. ライセンス条項に同意します、を選択し、次へ、をクリックします。
Product Updates ページが開きます(図11を参照)。

図11 Product Updates ページ



6. SQL Server 製品の更新を含める、をオフにし、次へ、をクリックします。
Install Setup Files ページが開きます(図12を参照)。

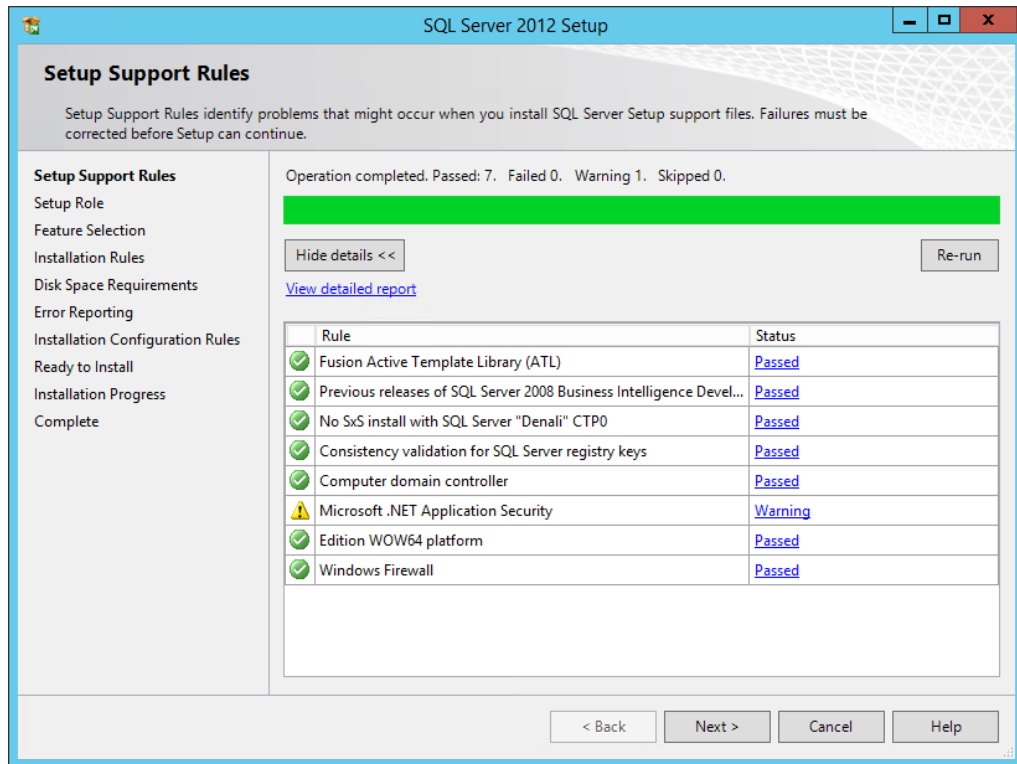
図12 Install Setup Files ページ



セットアップファイルが正常にインストールされると、Setup Support Rules ページが開きます(図13を参照)。

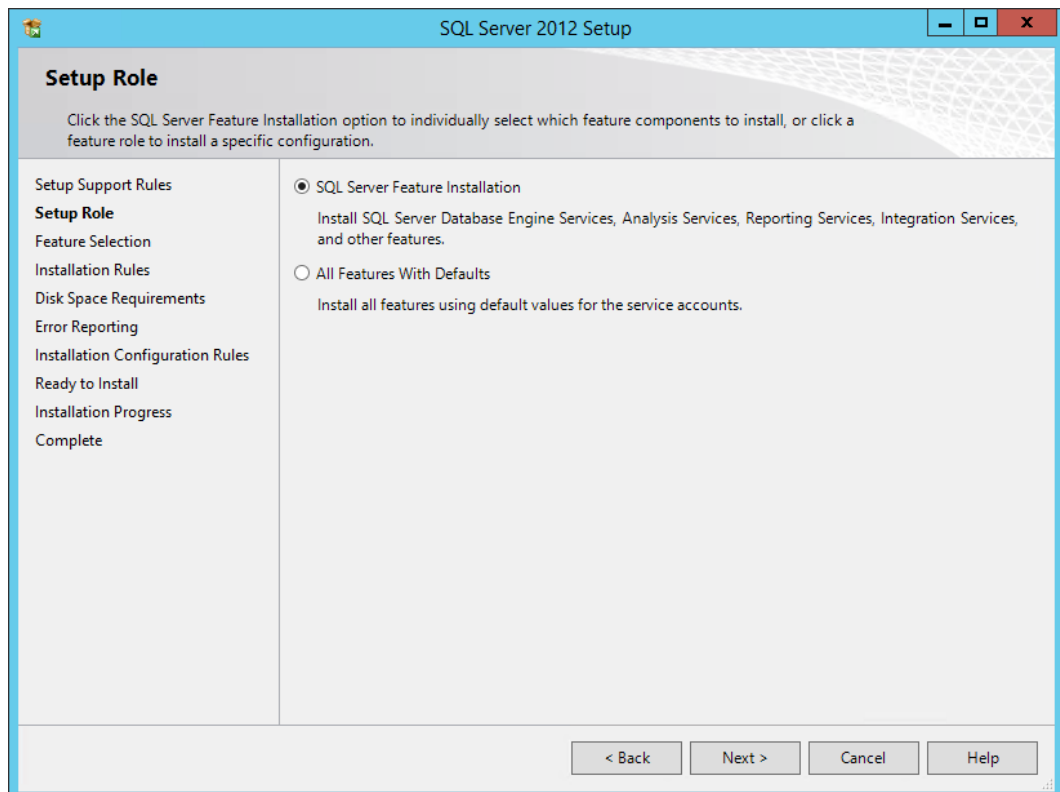
SQL Server セットアップファイルのインストール時に発生する可能性のある問題がチェックされます。

図13 Setup Support Rules ページ



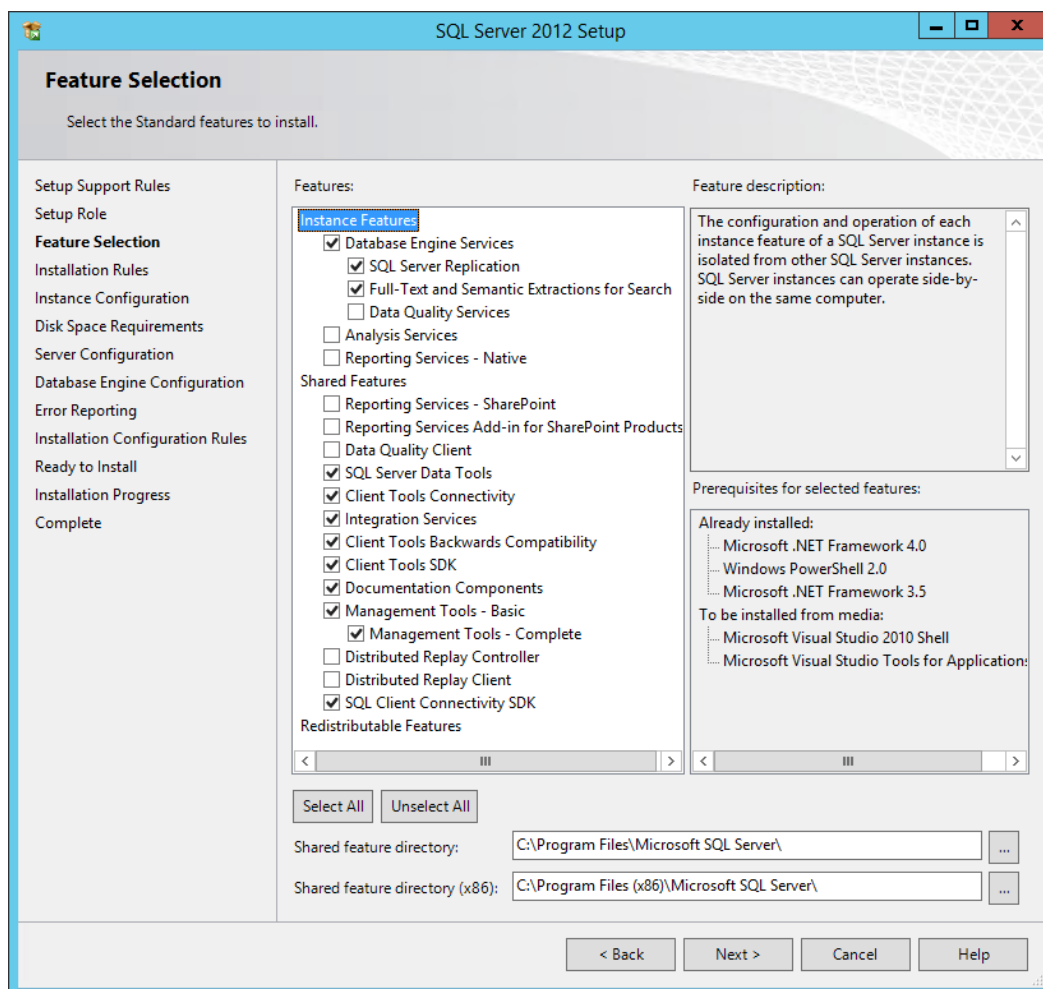
7. チェックが完了したら、次へ、をクリックします。
Setup Role ページが開きます(図14を参照)。

図14 Setup Role の設定ページ



8. SQL Server 機能のインストールを選択し、次へ、をクリックします。
Feature Selection ページが開きます(図15を参照)。

図15 Feature Selection ページ



9. インストールする機能を選択し、Shared feature directory および Shared feature directory(x86)フィールドでディレクトリを指定します。

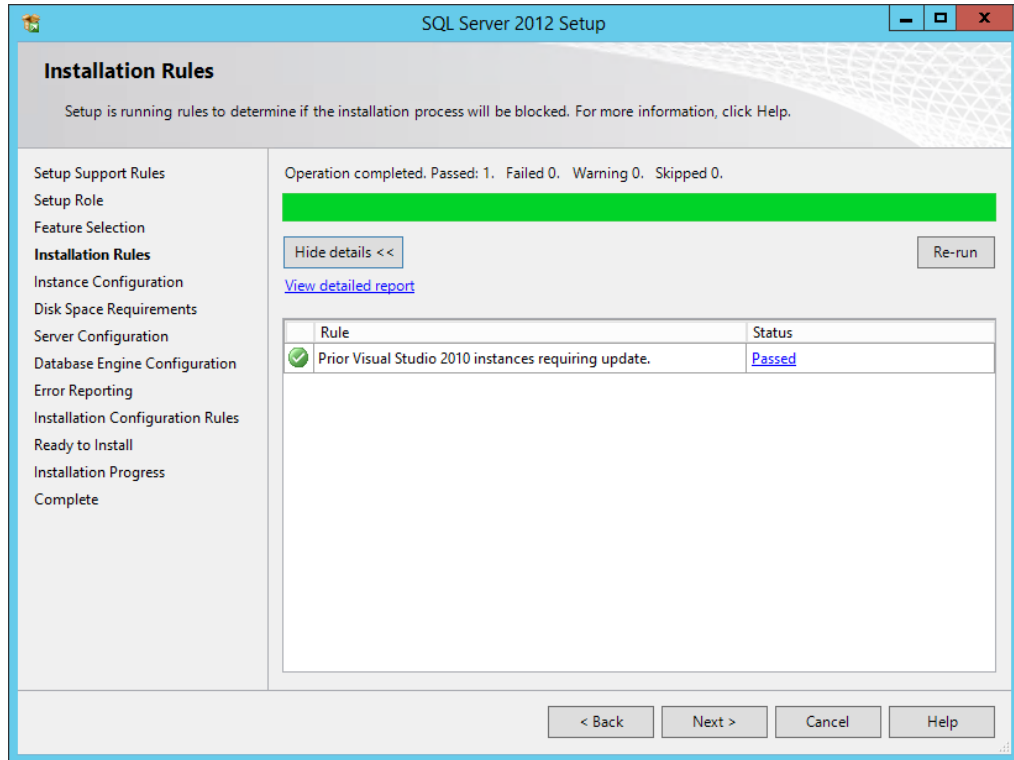
共有機能ディレクトリおよび共有機能ディレクトリ(x86)フィールドのデフォルト設定は、それぞれ C:\Program Files\Microsoft SQL Server および C:\Program Files(x86)\Microsoft SQL Server です。変更できるのはドライブ文字のみです。ディレクトリに十分な領域を持つ別のドライブを指定できます。この例では、ディスクドライブ D を使用します。

10. 次へ、をクリックします。

Installation Rules ページが開きます(図16を参照)。

インストーラはコンピュータ上のインストール環境をチェックします。

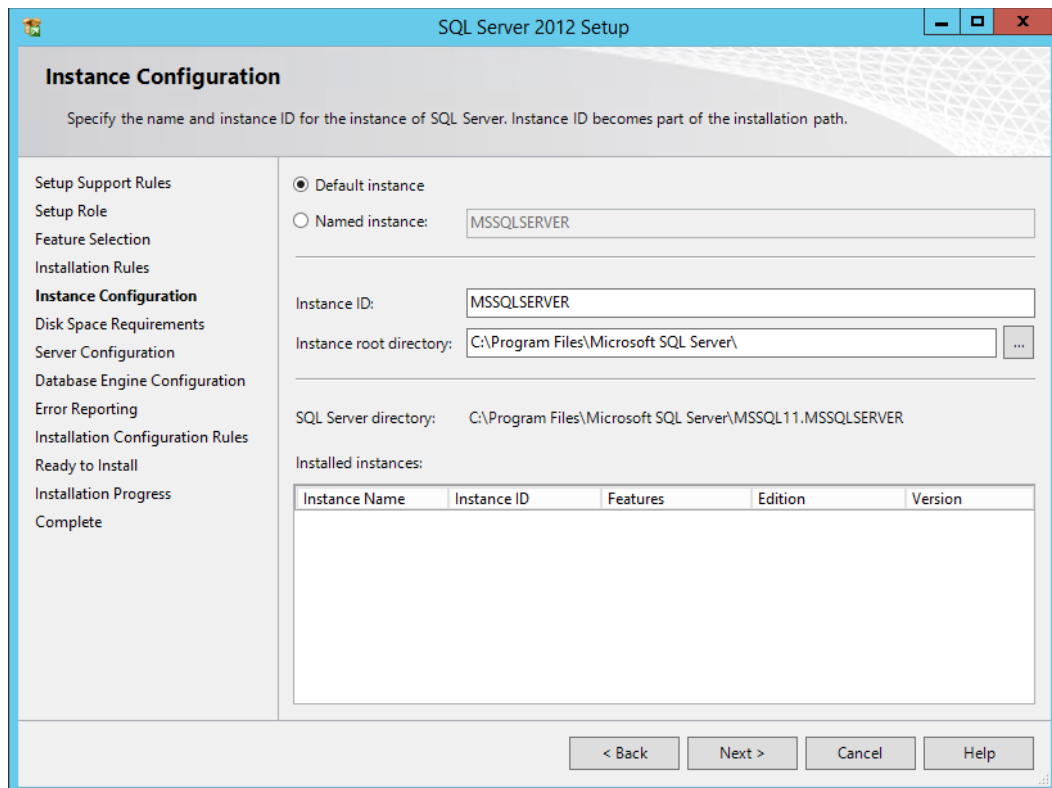
図16 Installation Rules ページ



11. 次へ、をクリックします。

Instance Configuration ページが開きます(図17を参照)。

図17 Installation Rules ページ



12. SQL Server のデフォルトインスタンスまたは名前付きインスタンスをインストールします。
- デフォルトインスタンスをインストールするには、デフォルトインスタンスを選択し、インスタンス ID を指定します。デフォルトインスタンス ID は MSSQLSERVER です。
 - 名前付きインスタンスをインストールするには、名前付きインスタンスを選択し、インスタンス ID を指定します。iMC のインストール時にインスタンス名を指定する必要があります。

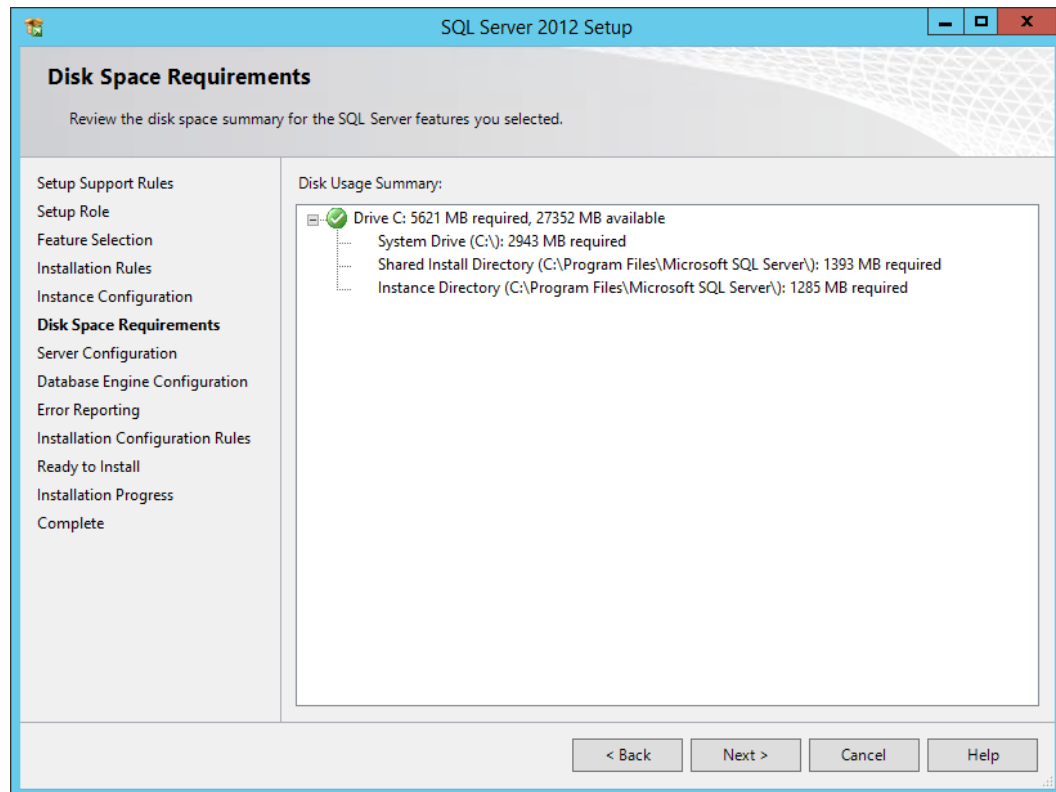
この例では、Default instance を選択し、デフォルトインスタンス MSSQLSERVER を使用します。

13. 次へ、をクリックします。

Disk Space Requirements ページが開きます(図18を参照)。

選択した機能に必要なディスク容量が計算され、ディスク使用量の結果がチェックされて表示されます。

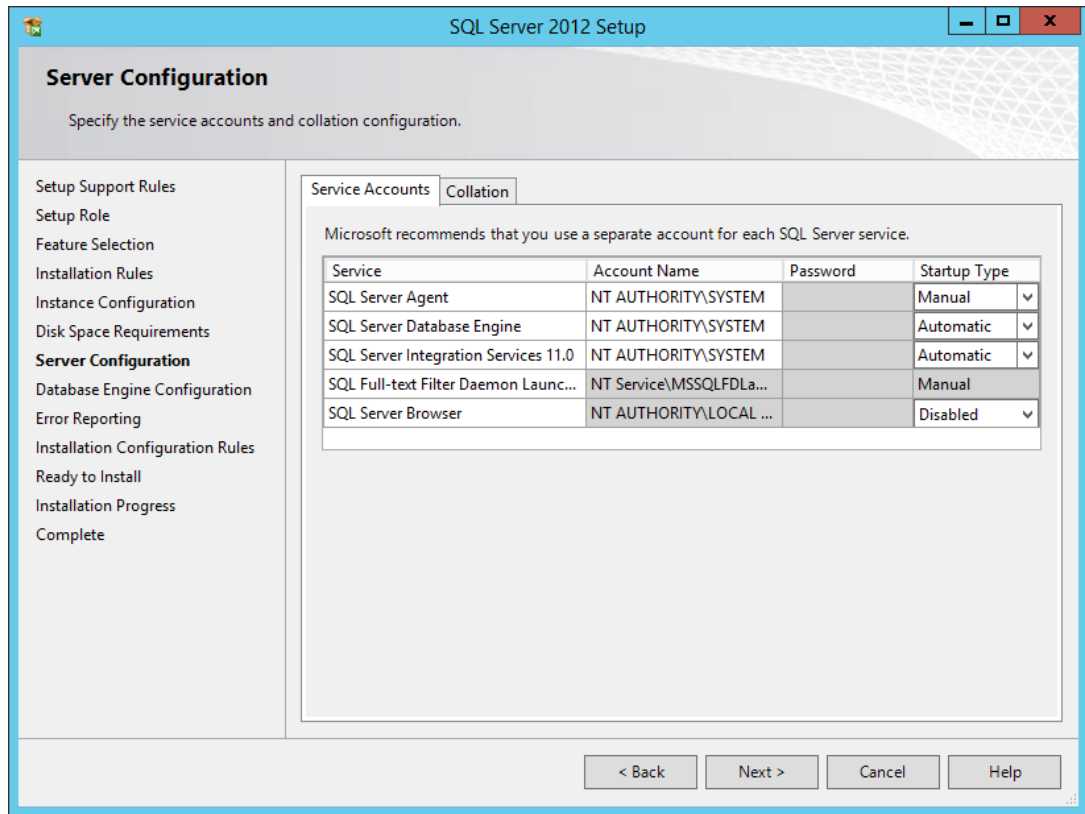
図18 Disk Space Requirements ページ



14. 次へ、をクリックします。

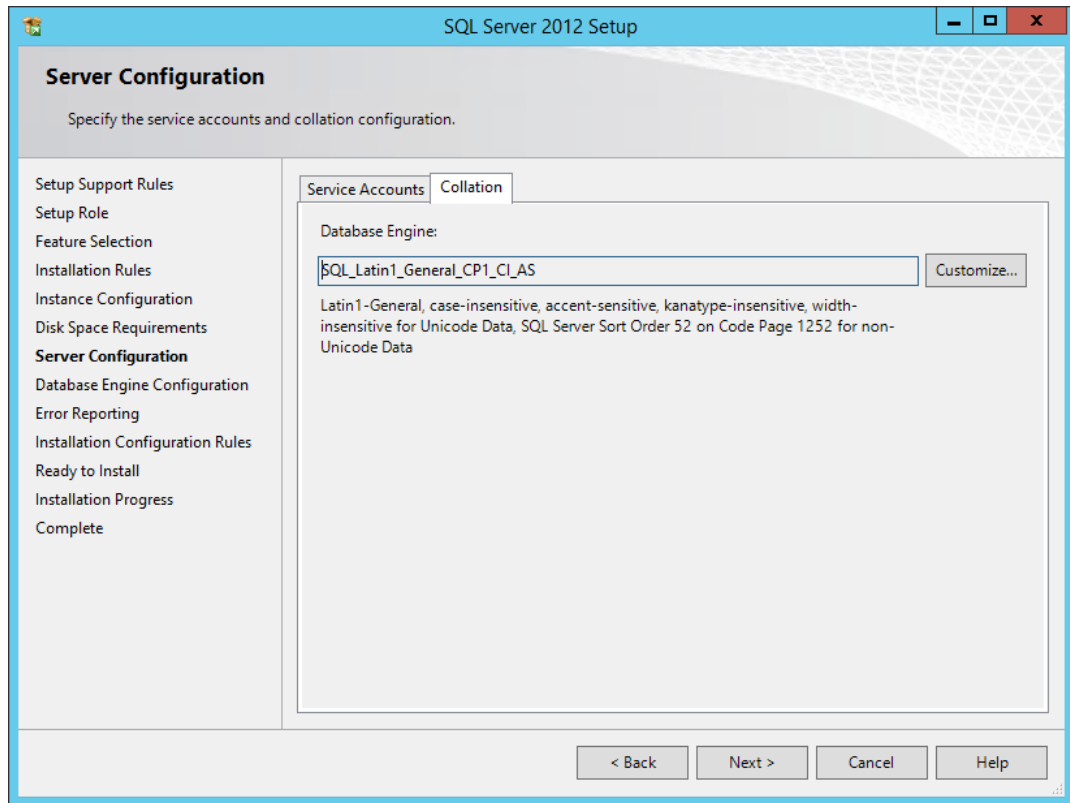
Service Accounts タブには、SQL Server サービスのログインアカウントとサービススタートアップタイプが表示されます(図19を参照)。

図19 Service Accounts タブ



15. Service Accounts タブのデフォルト設定を使用します。
で SQL Server の名前付きインスタンスを選択した場合は、SQL Server ブラウザサービスのスタートアップの種類を自動的に設定します。
16. 照合タブをクリックします(図20を参照)。

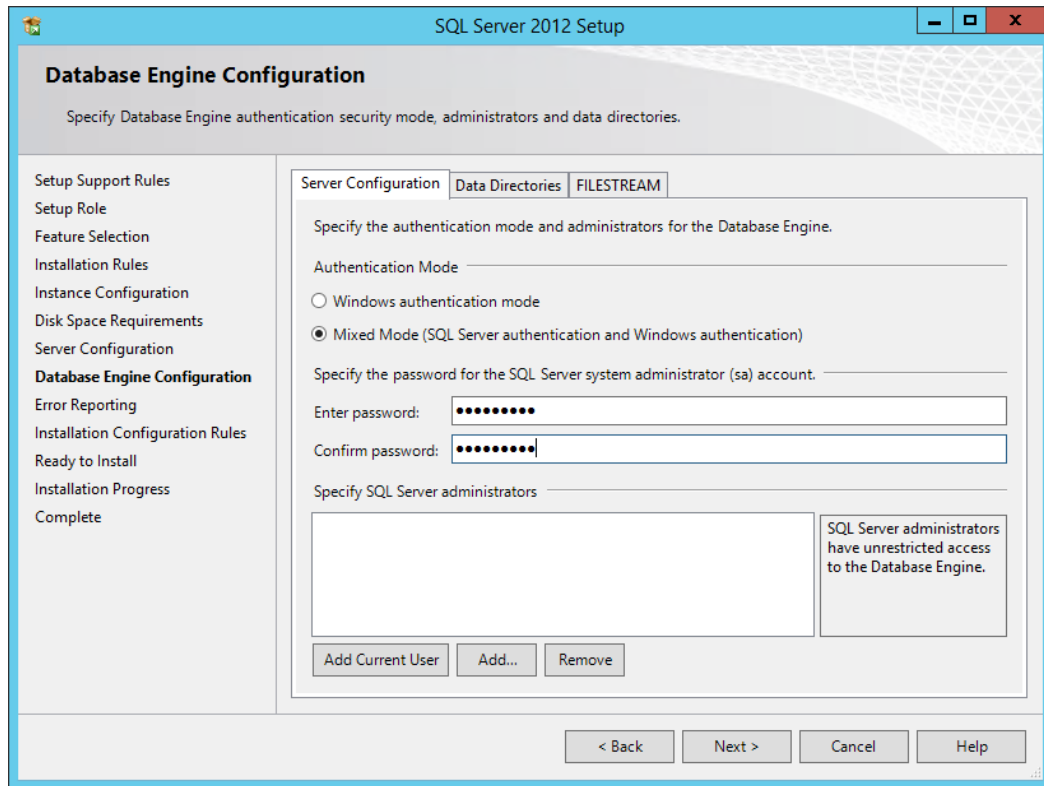
図20 照合タブ



17. デフォルトの照合設定を使用するか、特定の言語の要件に合わせて設定を変更し、次へ、をクリックします。

Database Engine Configuration ページが開きます(図21を参照)。

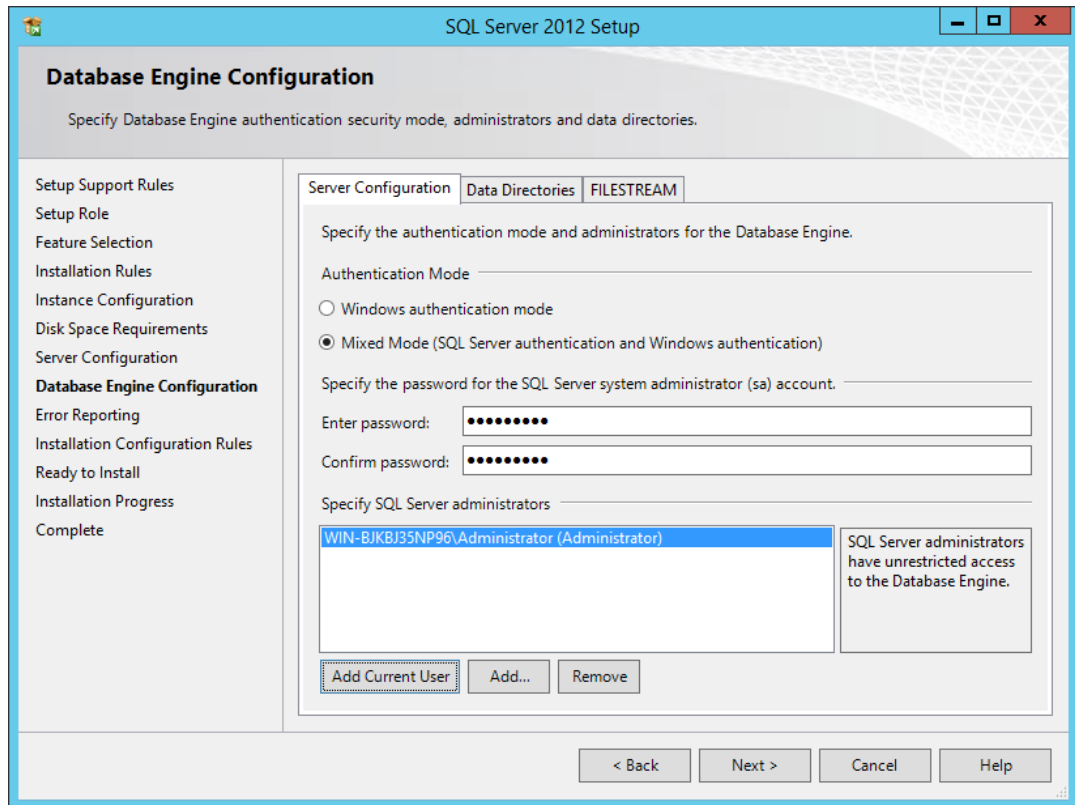
図21 Database Engine Configuration ページ



18. Authentication Mode で Mixed Mode を選択し、ユーザー sa のパスワードを設定して、SQL Server 管理者を追加します(図22を参照)。

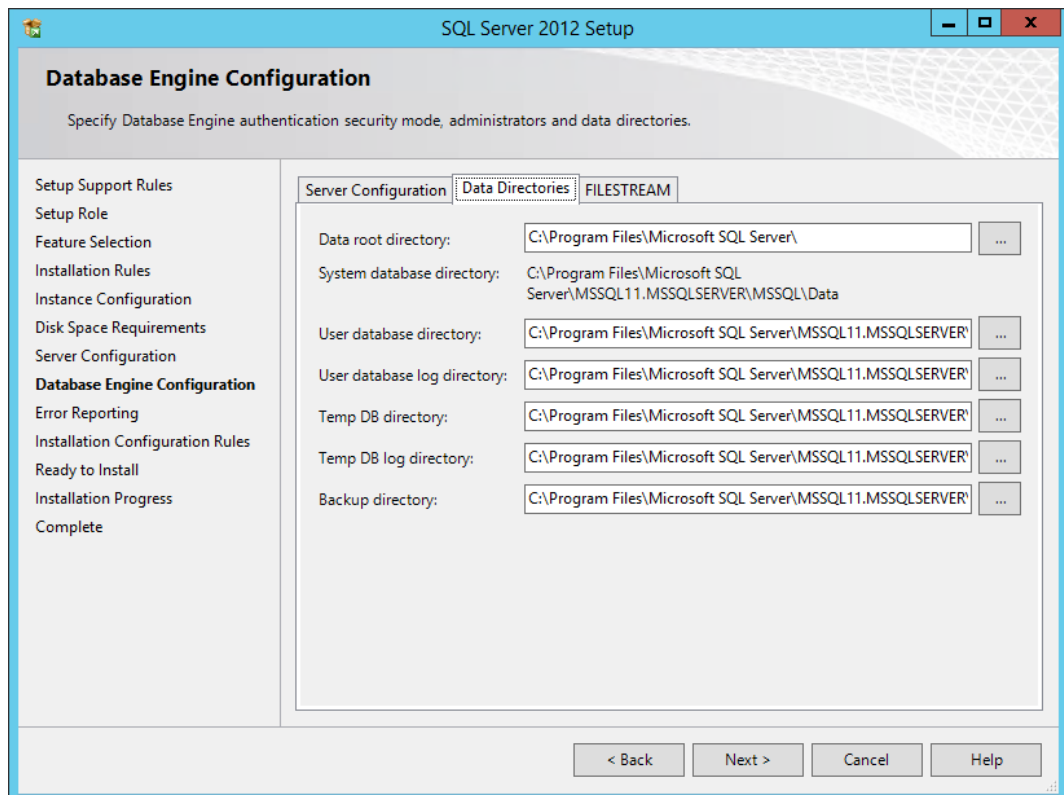
- SQL Server2012 にはパスワードの複雑さに関する要件があります。詳細については、SQL Server2012 のオンラインヘルプを参照してください。
- インストール中に iMC が sa ログオンパスワードを正しく識別できるように、パスワードに次の文字が含まれていないことを確認してください。
 - 左山カッコ(<)
 - 右山カッコ(>)
 - 縦棒(|)
 - タブ(\t)
- sa ユーザーのパスワードに以前の文字を含める必要がある場合は、iMC インストールの前に sa ユーザー権限を持つスーパーユーザーを作成します。スーパーユーザーのパスワードに前の文字が含まれていないことを確認してください。データベーススーパーユーザーの作成については、「superuser の変更」を参照してください。

図22 SQL Server 管理者の指定



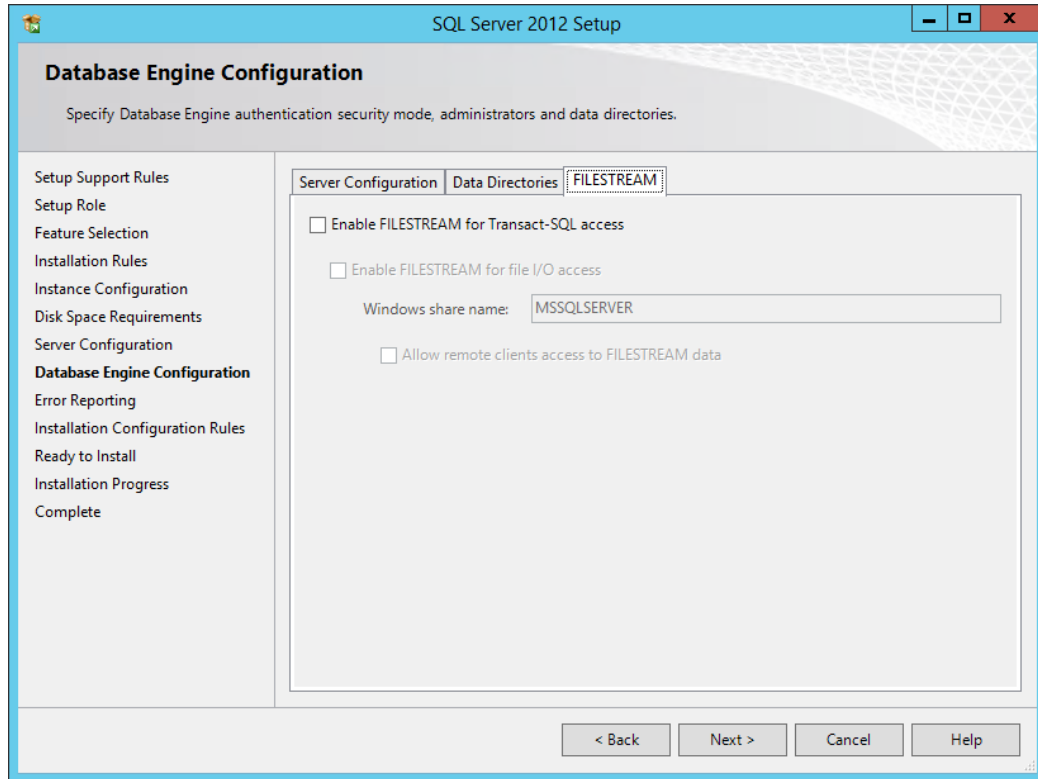
19. Data Directories タブのデフォルト設定を使用します(図23を参照)。

図23 Data Directories タブ



20. FILE STREAM タブのデフォルト設定を使用します(図24を参照)。

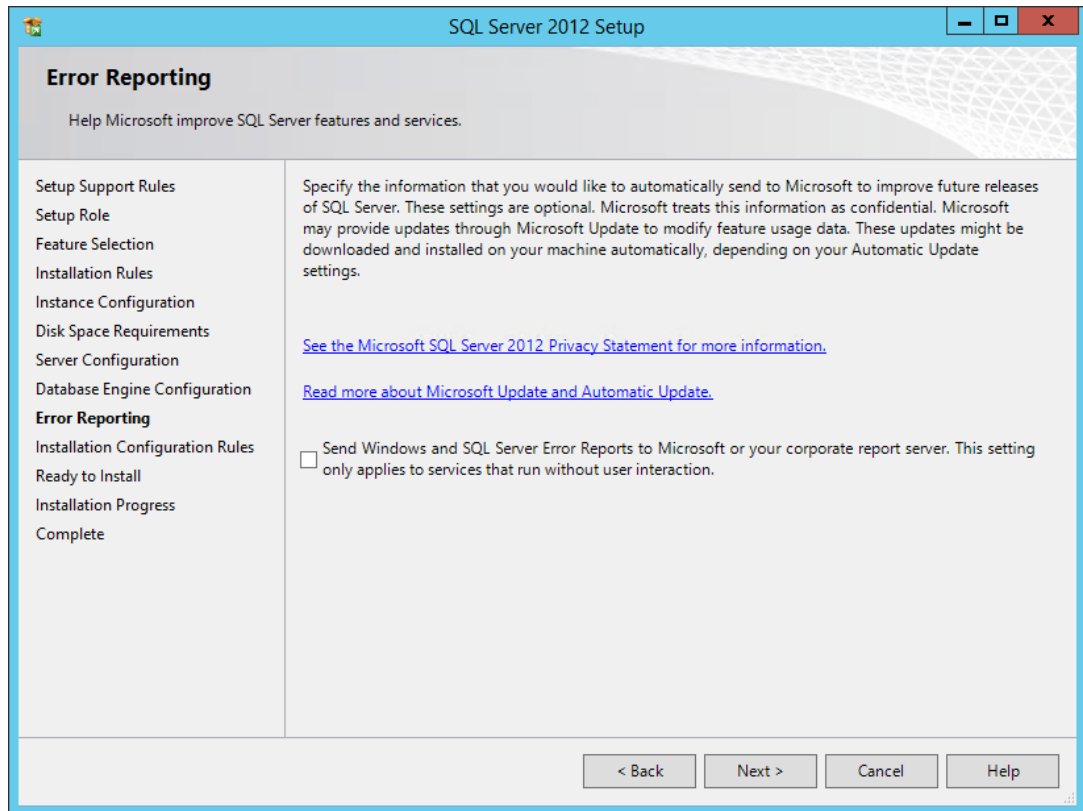
図24 FILE STREAM タブ



21. 次へ、をクリックします。

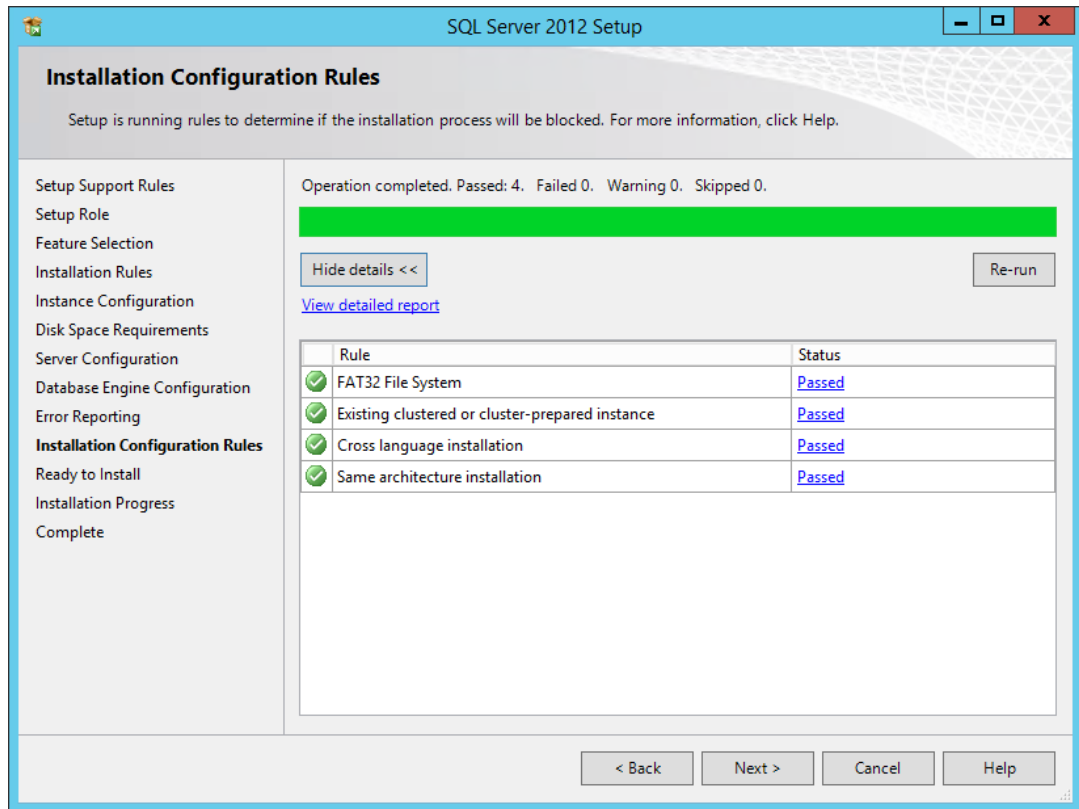
Error Reporting ページが開きます(図25を参照)。

図25 Error Reporting ページ



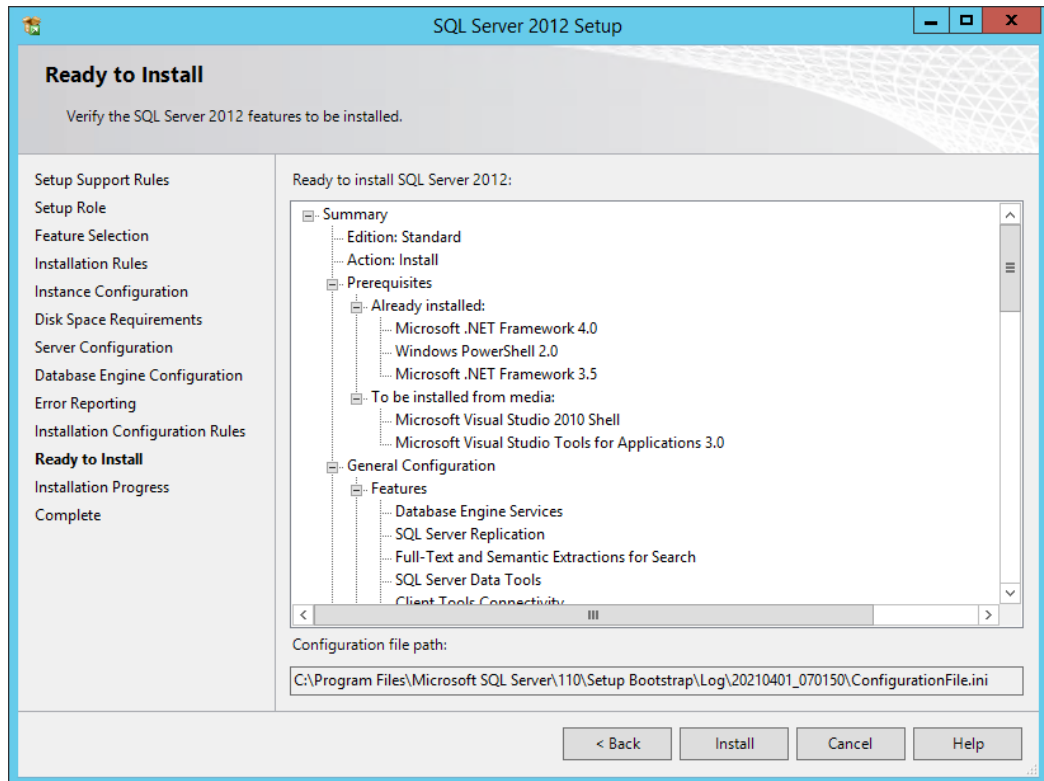
22. 既定の設定を使用して、次へ、をクリックします。
Installation Configuration Rules ページが開きます(図26を参照)。

図26 Installation Configuration Rules ページ



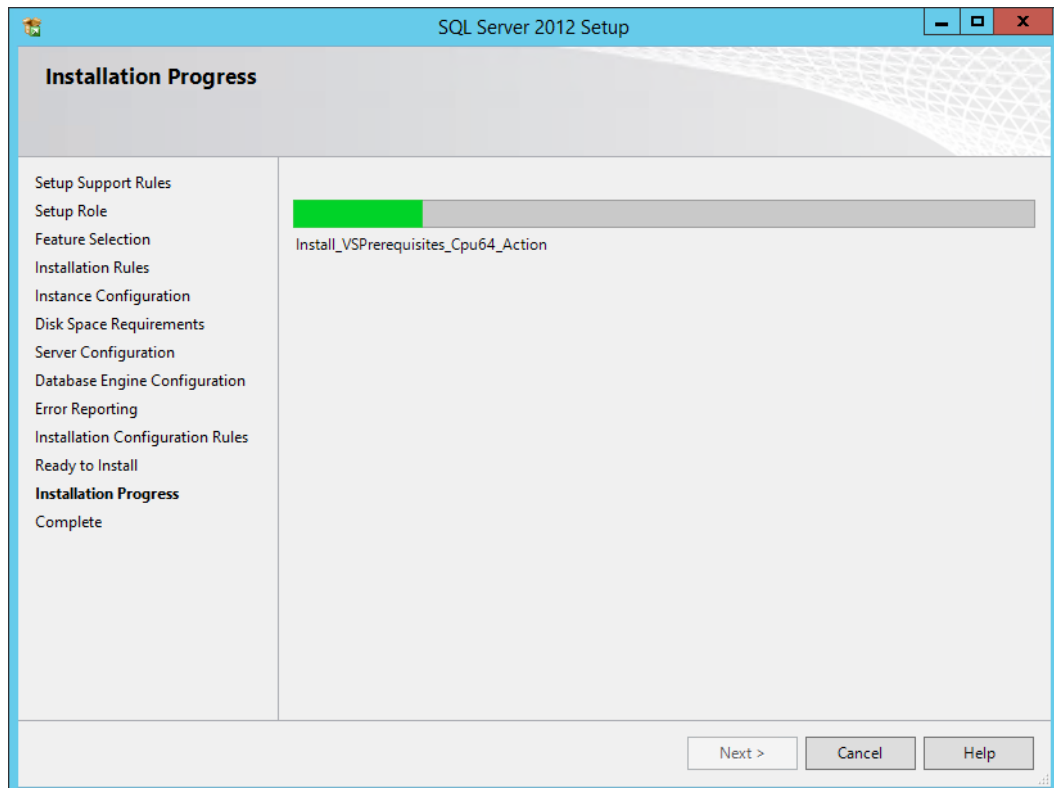
23. 次へ、をクリックします。
Ready to Install ページが開きます(図27を参照)。

図27 Ready to Install ページ



24. インストールをクリックします。
Installation Progress ページが開きます(図28を参照)。

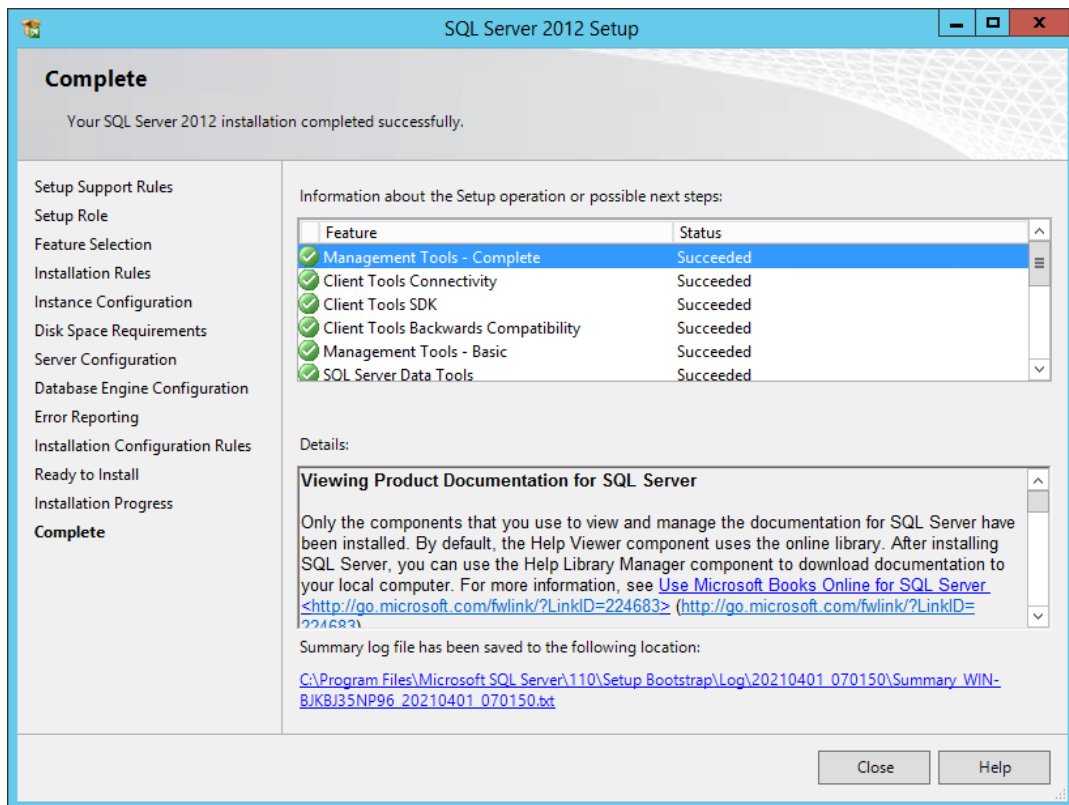
図28 Installation Progress ページ



25. インストールが完了したら、次へ、をクリックします。

Complete ページには、インストールおよびその他の重要な注意事項に関するサマリーログファイルへのリンクが表示されます(図29を参照)。

図29 Complete ページ



26. 閉じる、をクリックします。

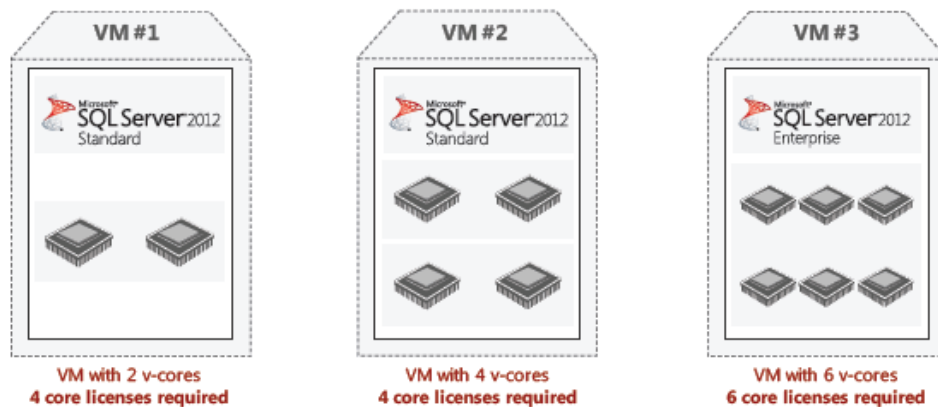
27. オペレーティングシステムを再起動します。

SQL Server ライセンスの登録

SQL Server は、次のライセンス登録モードをサポートしています。

- ユーザーごとのライセンス: SQL Server 2012 Developer および Parallel Data Warehouse の登録に使用します。
- コアごとのライセンス: SQL Server 2012 以降のバージョンを登録するために使用します。SQL Server コンポーネントとともにインストールされるサーバーの場合、コアライセンス数はすべてのプロセッサ上のコアの合計数によって決定されます。コアごとに 1 つのコアライセンスを購入する必要があります。コアの数が 1 つのプロセッサ上の 4 つ未満の場合でも、そのプロセッサには 4 つのコアライセンスが必要です。コアごとのライセンスでは、SQL サーバーと iMC サーバーの数は関係ありません。コアごとのライセンスは、複数の SQL サーバーと iMC サーバーを含むネットワークに適用できます。図30に、SQL Server 2012 のコアごとのライセンスの例を示します。

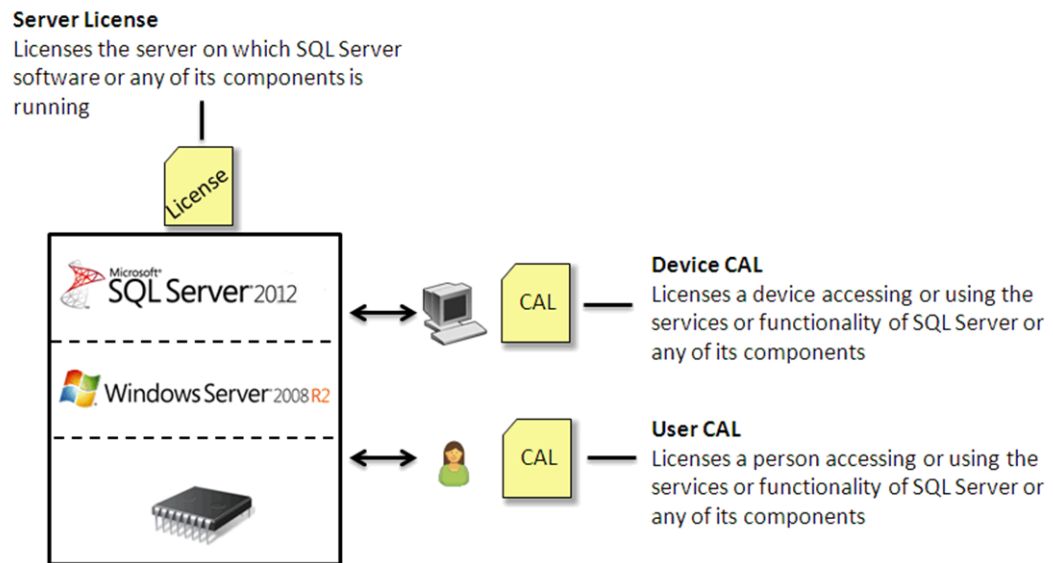
図30 Per Core ライセンス



This figure illustrates the licensing requirements for three different virtual machines under the Per Core licensing model

- サーバー/CAL ライセンス: サーバー/CAL ライセンスの数は、SQL サーバーおよび iMC サーバーの数によって決まります。SQL サーバーごとにサーバーライセンスを購入し、iMC サーバーごとに CAL ライセンスを購入する必要があります。サーバー/CAL ライセンスは、SQL サーバーおよび iMC サーバーが少ないネットワークに適用できます。図31に、SQL Server 2012 のサーバー/CAL ライセンスの例を示します。

図31 サーバー/CAL ライセンス



ライセンス登録モードを選択する前に、iMC 展開環境を決定します。

- iMC が集中モードで展開されている場合は、iMC サーバー専用の CAL ライセンスを購入してください。
- iMC が分散モードで展開されている場合は、SQL Server にアクセスする必要がある iMC サーバーごとに CAL ライセンスを購入します。

SQL Server ライセンス登録の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

注:

ライセンス登録モードは、SQL Server 2012/2014/2016/2017 の Standard Edition および Enterprise Edition に適用されます。Express Edition などの他のエディションのライセンスを購入する必要はありません。

SQL Server クライアントのインストール

インストール手順

❗ **重要:**

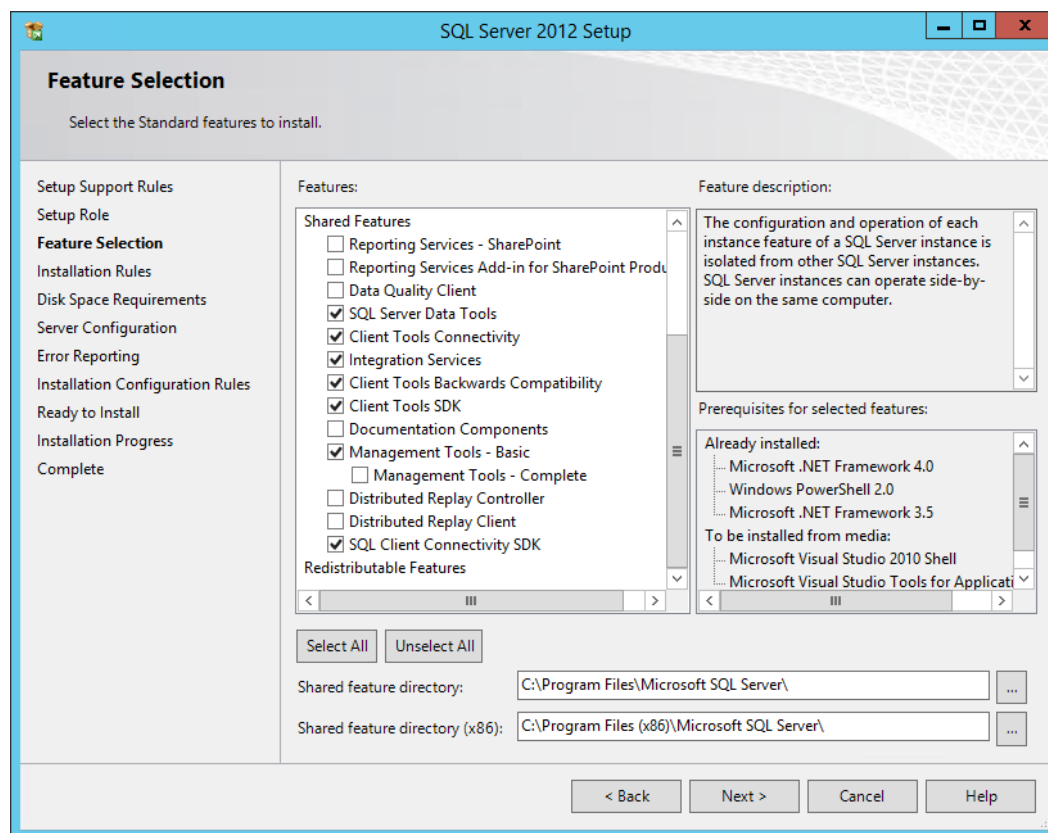
すべての iMC サーバ(下位サーバを含む)に SQL Server クライアントをインストールする必要があります。

SQL Server クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

1. SQL Server2012 インストールプログラムを実行します。
2. Feature Selection ページで、フィーチャーを選択します(図32を参照)。

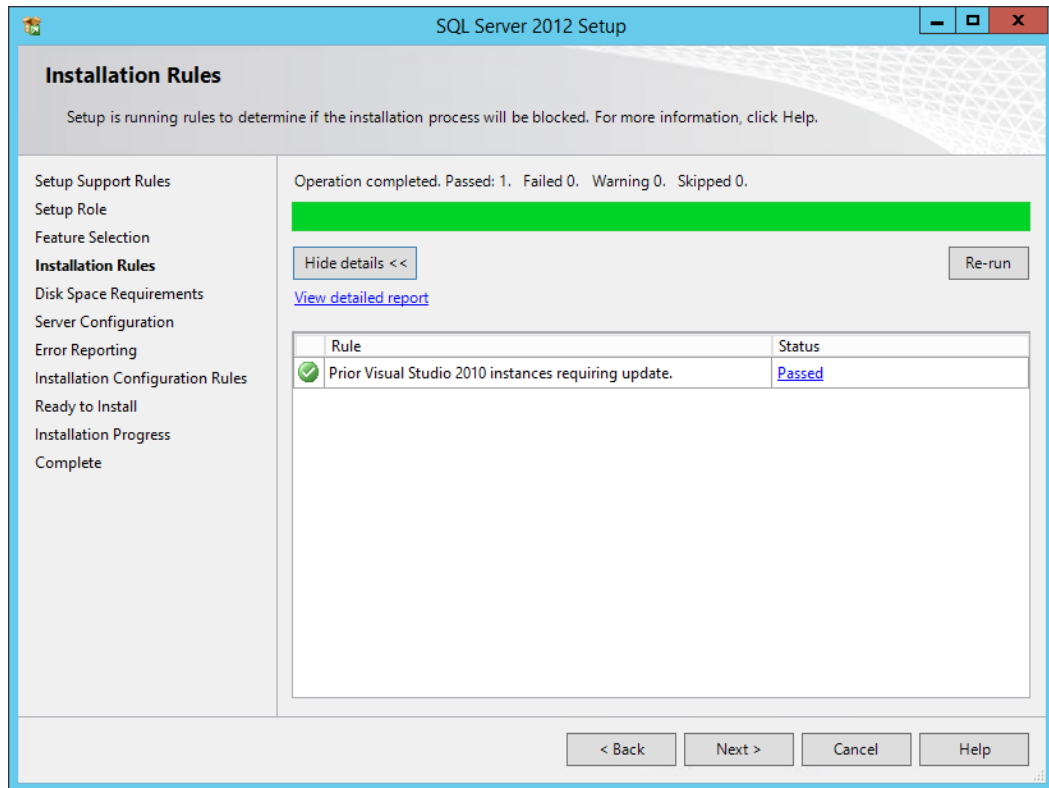
Feature Selection ページの表示については、「SQL Server 2012 のインストール」を参照してください。

図32 Feature Selection ページ



3. 次へ、をクリックします。
Installation Rules ページが開きます(図33を参照)。

図33 Installation Rules ページ

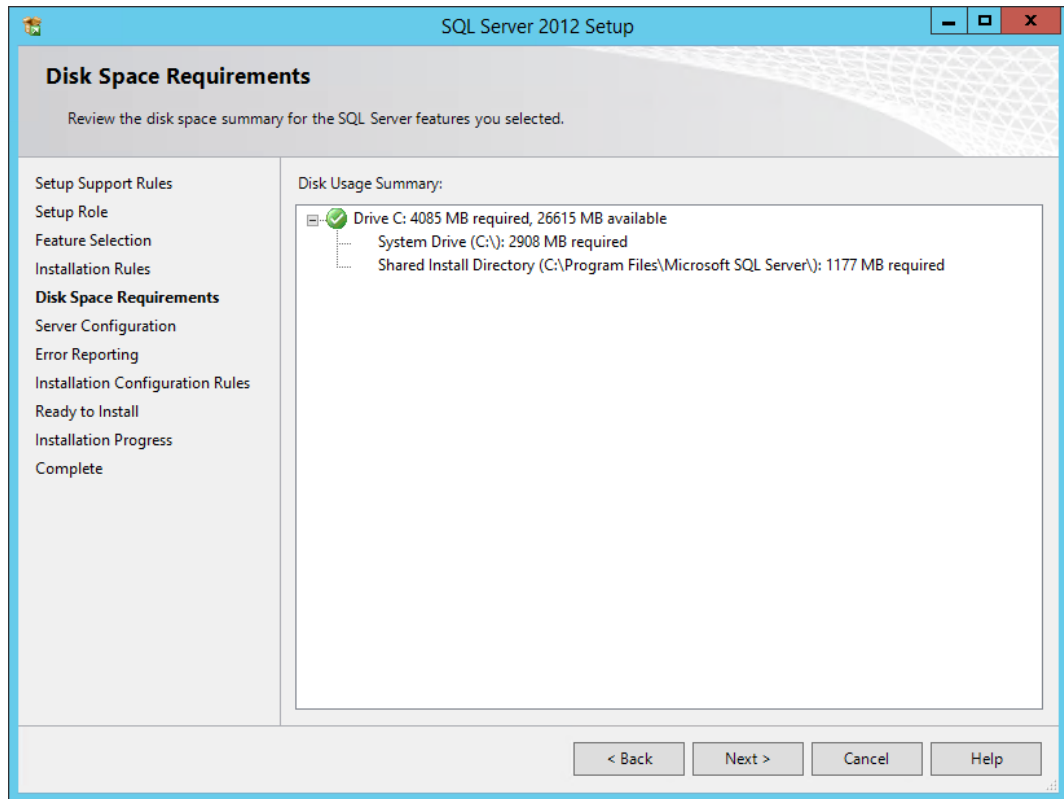


4. 次へ、をクリックします。

Disk Space Requirements ページが開きます(図34を参照)。

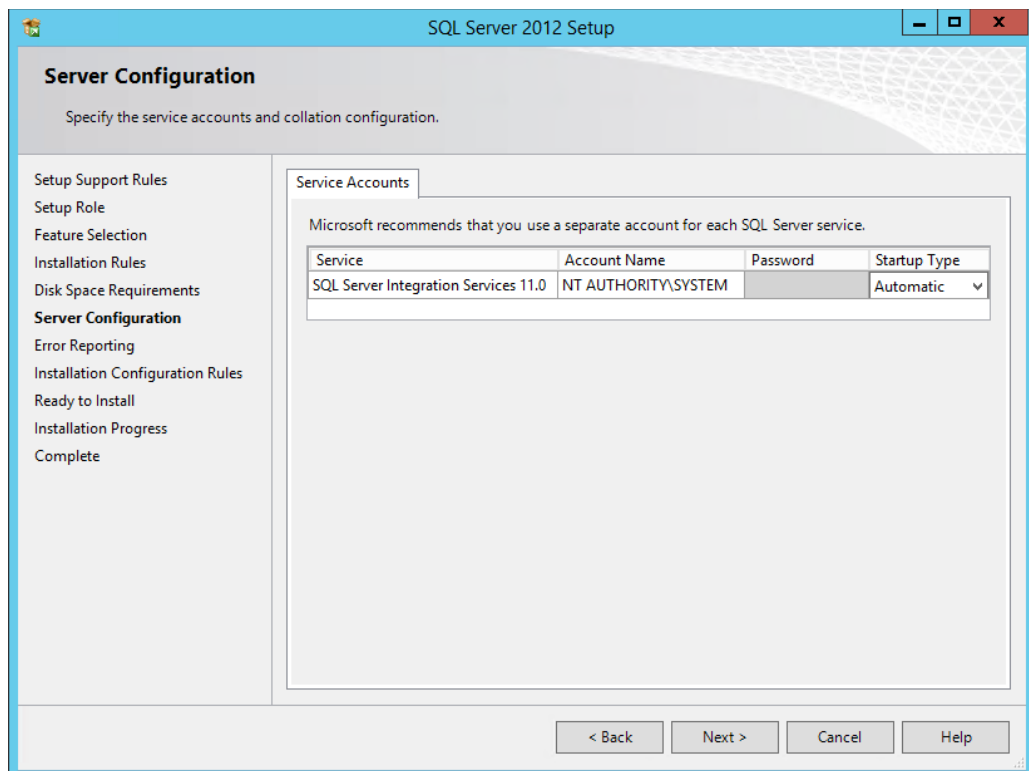
選択した機能に必要なディスク容量が計算され、ディスク使用量の結果がチェックされて表示されます。

図34 Disk Space Requirements ページ



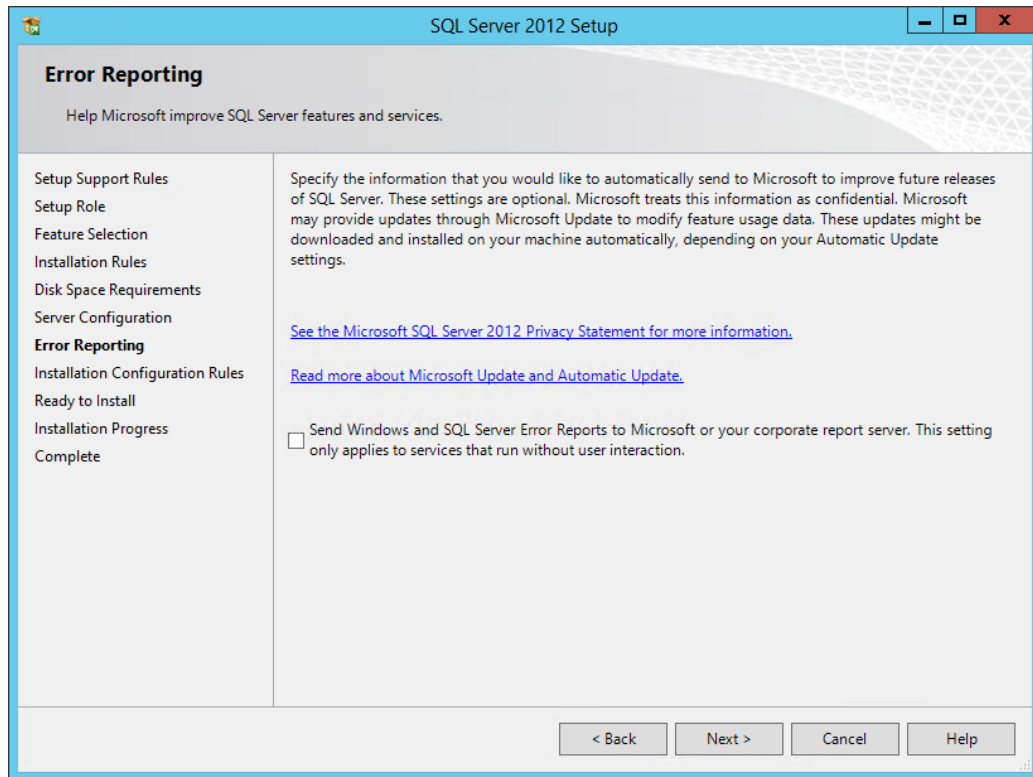
5. 次へ、をクリックします。
Server Configuration ページが開きます(図35を参照)。

図35 Server Configuration ページ



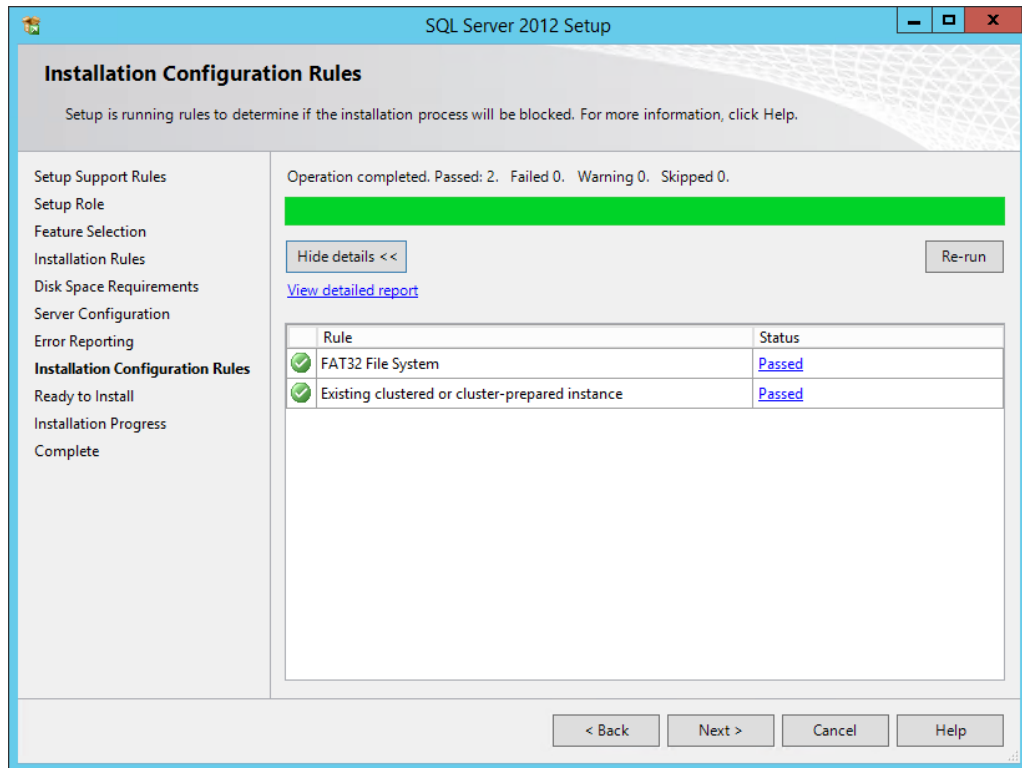
6. 次へ、をクリックします。
Error Reporting ページが開きます(図36を参照)。

図36 Error Reporting ページ



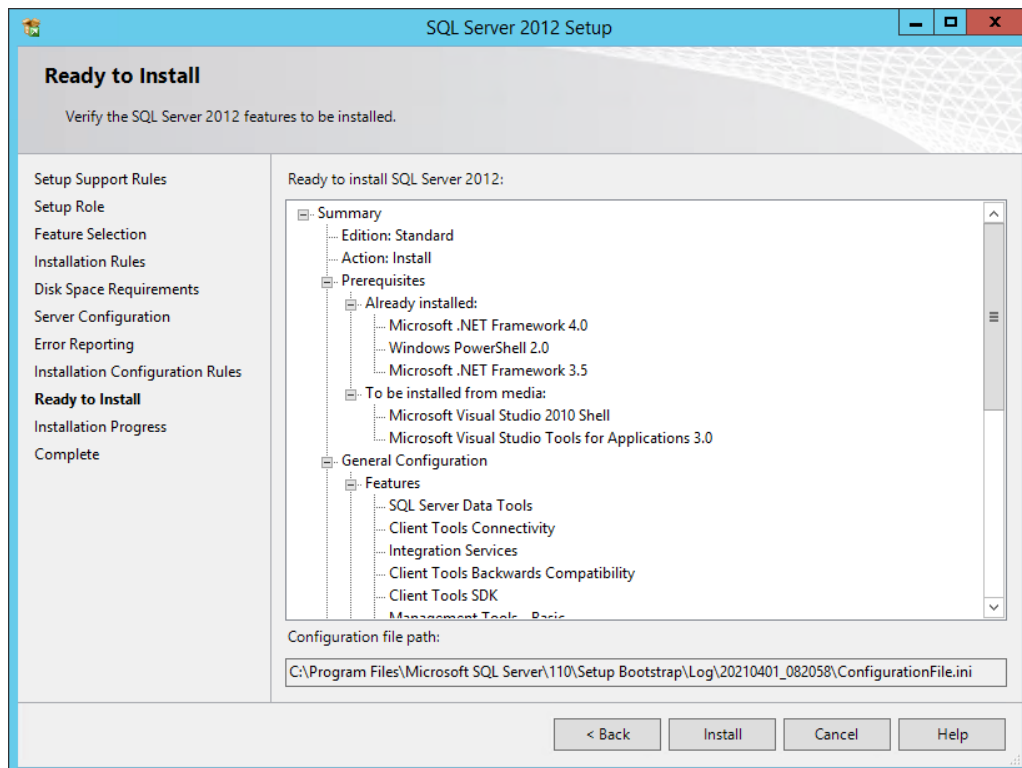
7. デフォルト設定を使用します。次へ、をクリックします。
Installation Configuration Rules ページが開きます(図37を参照)。

図37 Installation Configuration Rules ページ



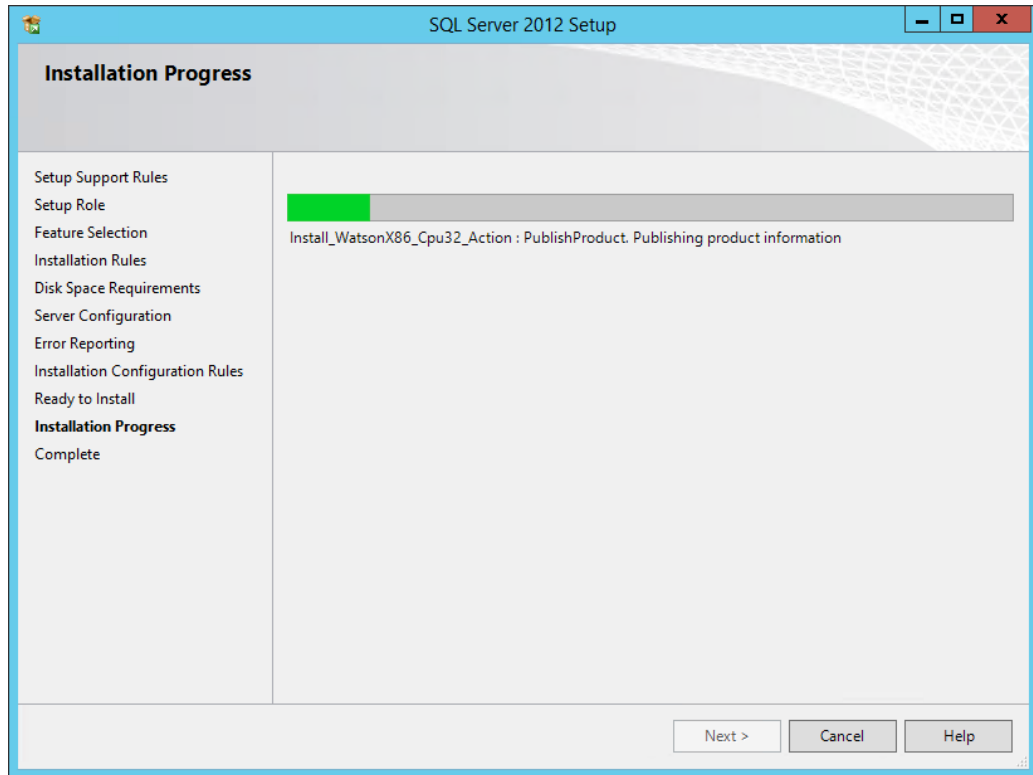
8. 次へ、をクリックします。
Ready to Install ページが開きます(図38を参照)。

図38 Ready to Install ページ



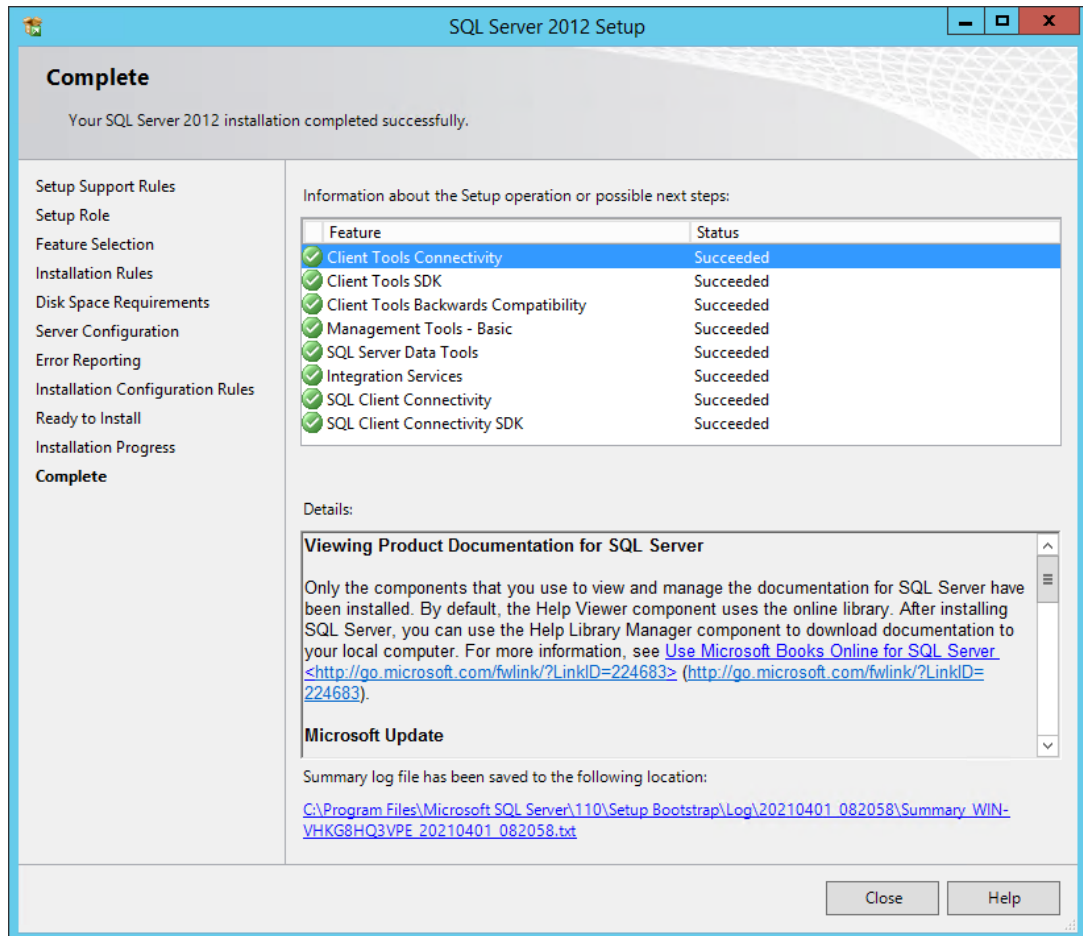
9. インストール情報を確認し、インストールをクリックします。
Installation Progress ページが開きます(図39を参照)。

図39 Installation Progress ページ



インストールが完了すると、Complete ページが開きます(図40を参照)。

図40 Complete ページ



10. 閉じる、をクリックします。
11. オペレーティングシステムを再起動します。

接続性のテスト

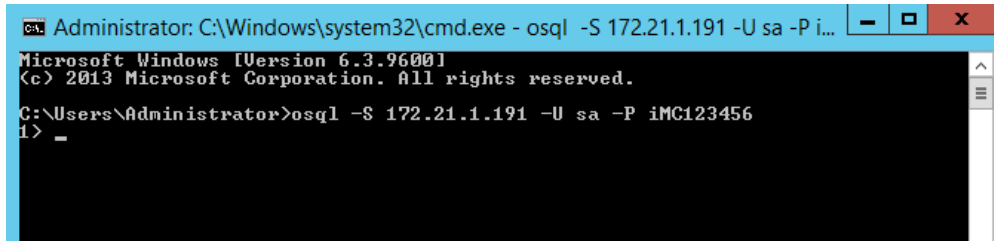
クライアントと SQL Server データベース間の接続をテストするには、次の手順を実行します。

1. スタートメニューからファイル名を指定して実行、を選択し、ファイル名を指定して実行、ダイアログボックスに cmd と入力します。
2. CMD ウィンドウで、次のいずれかのコマンドを入力します。
 - デフォルトインスタンスの場合：
osql-S172.21.1.191-U sa-P iMC123456
 - 名前付きインスタンスの場合：
osql-S172.21.1.191\インスタンス名-U sa-P iMC123456

これらのコマンドでは、172.21.1.191 は SQL Server データベースの IP アドレス、sa および iMC123456 はデフォルトスーパーユーザーのユーザー名とパスワード、instancename は名前付きインスタンスを表します。

SQL コマンドプロンプトが表示されている場合は、SQL Server データベースに接続しています(図41を参照)。

図41 接続性のテスト



```
Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe - osql -S 172.21.1.191 -U sa -P i...  
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]  
(c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.  
C:\Users\Administrator>osql -S 172.21.1.191 -U sa -P iMC123456  
1> _
```

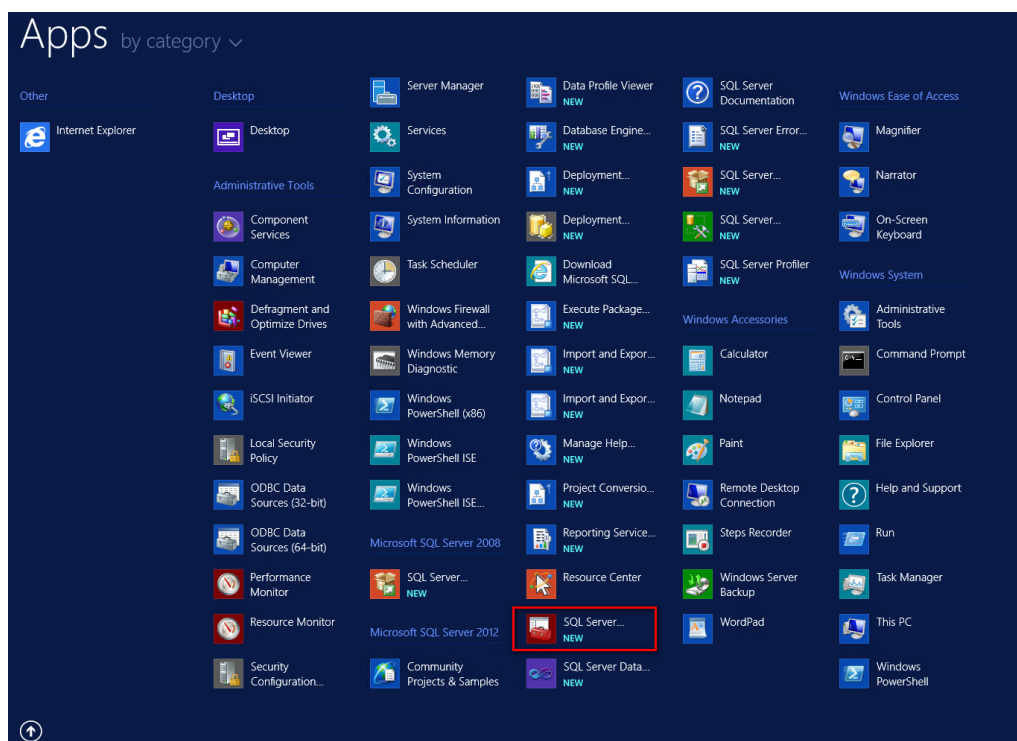
SQL Server2012 の構成

次に、SQL Server データベースを構成する手順と手順を説明します。

TCP/IPプロパティの構成

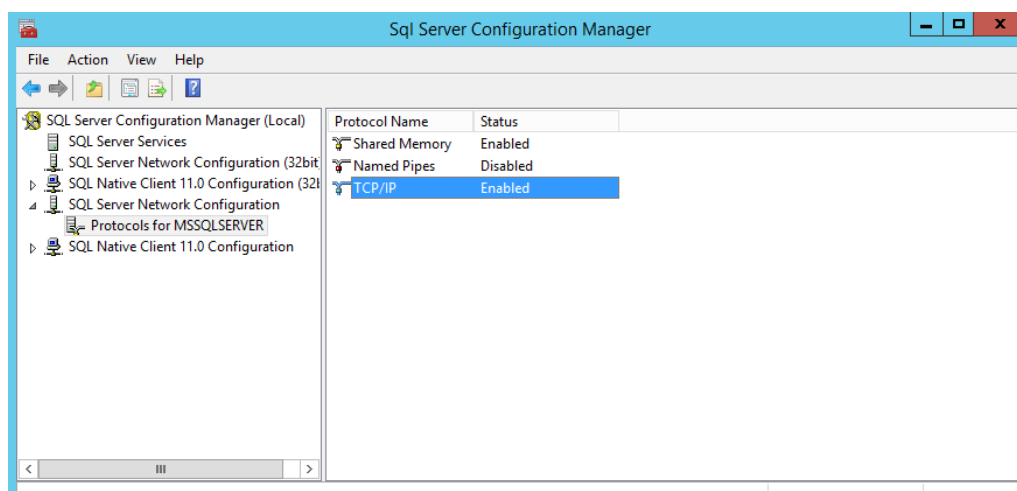
1. Start > All Programs > Microsoft SQL Server2012 > SQL Server Configuration Manager を選択します(図42を参照)。

図42 SQL Server Configuration Manager の起動



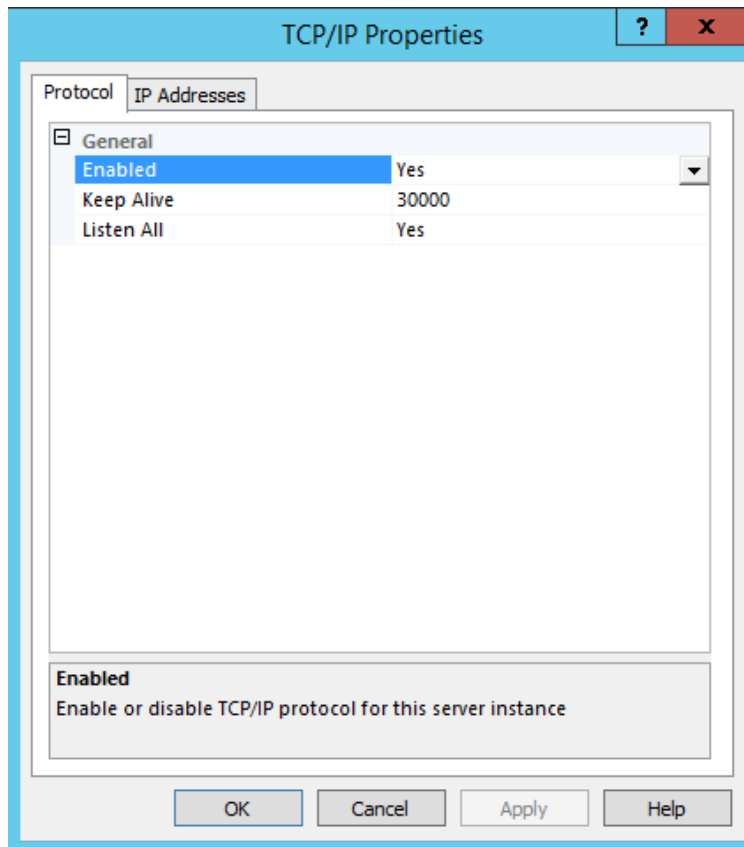
SQL Server Configuration Manager が開きます(図43を参照)。

図43 SQL Server Configuration Manager



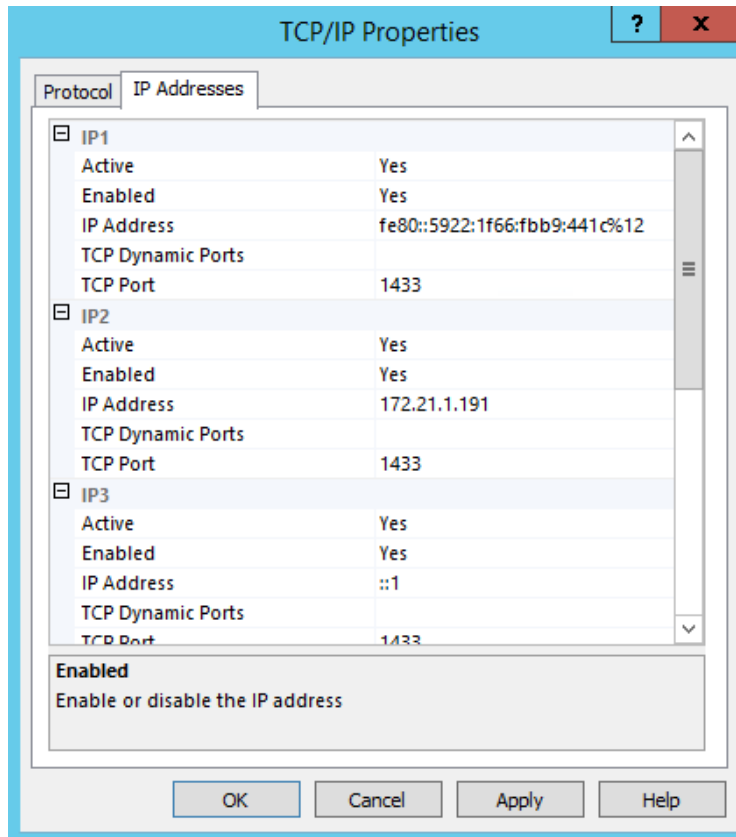
2. ナビゲーションツリーで、SQL Server Network Configuration > Protocols for MSSQLSERVER を選択します。
3. TCP/IP を右クリックし、ショートカットメニューからプロパティを選択します。
TCP/IP Properties ダイアログボックスが開きます(図44を参照)。

図44 TCP/IP Properties ダイアログボックス



4. プロトコルタブで、Listen All に Yes が選択されていることを確認します。
5. IP Addresses タブをクリックし、各 IP アドレスの Enabled オプションで Yes を選択し、TCP Port を 1433 に設定します(図45を参照)。

図45 IP Addresses タブ



6. 閉じる、をクリックします。
設定を検証するためにデータベースサービスを再起動する必要があることを示すメッセージが表示されます。
7. 閉じる、をクリックします。
8. SQL Server サービスを再起動します。詳細については、「SQL Server Service の再起動」を参照してください。

注:

- プロトコルタブの Listen All で Yes を選択すると、IP アドレスが変更された後に SQL Server によって IP アドレス設定が自動的に更新されます。No を選択した場合は、IP アドレスを手動で更新します。
- 名前付きパイププロパティも同じ方法で有効にできます。
- 分散配置では、すべてのデータベースサーバーが同じリスニングポートを使用するように構成してください。

SQL Serverの最大サーバーメモリーの変更

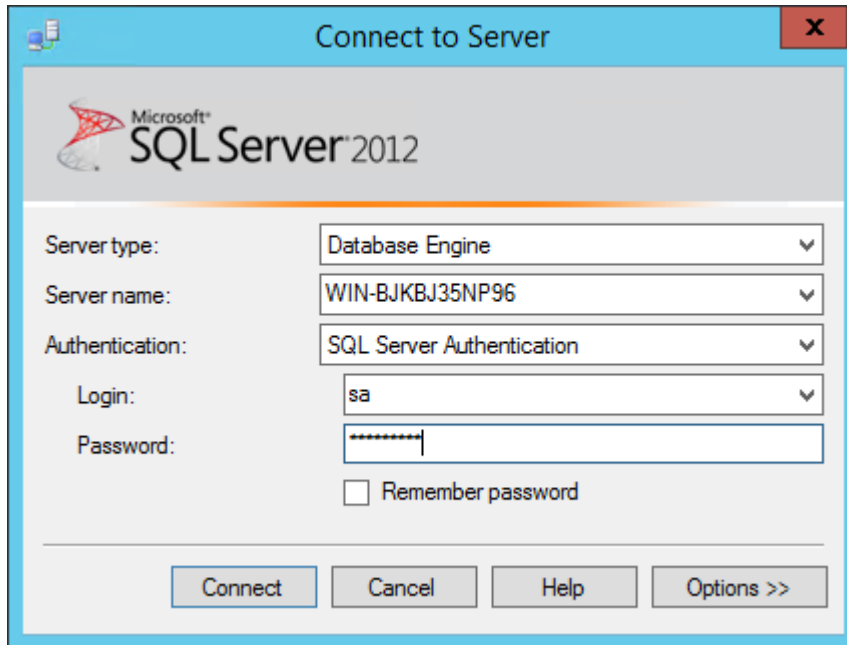
最適なパフォーマンスを確保するために、SQL Server はプリエンティブであり、2147483647MB のデフォルトの最大サーバーメモリー設定を使用します。IMC と SQL Server が同じサーバーにインストールされている場合は、SQL Server の最大サーバーメモリーを減らす必要があります。ベストプラクティスとして、最大サーバーメモリーをサーバーの物理メモリーの半分に設定してください。

SQL Server の最大サーバーメモリーを変更するには、次の手順を実行します。

1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > Microsoft SQL Server Management Studio を選択します。

データベースログインダイアログボックスが開きます(図46を参照)。

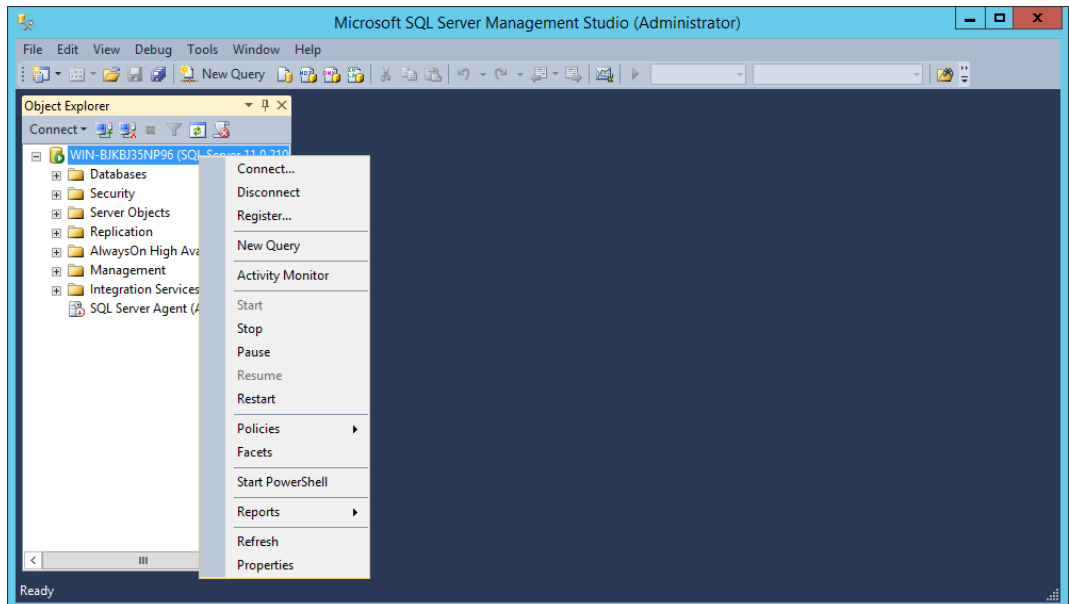
図46 データベースログインダイアログボックス



2. Authentication リストから SQL Server Authentication を選択します。
3. ログインフィールドにスーパーユーザーのユーザー名 sa を入力し、パスワードを入力して、接続をクリックします。

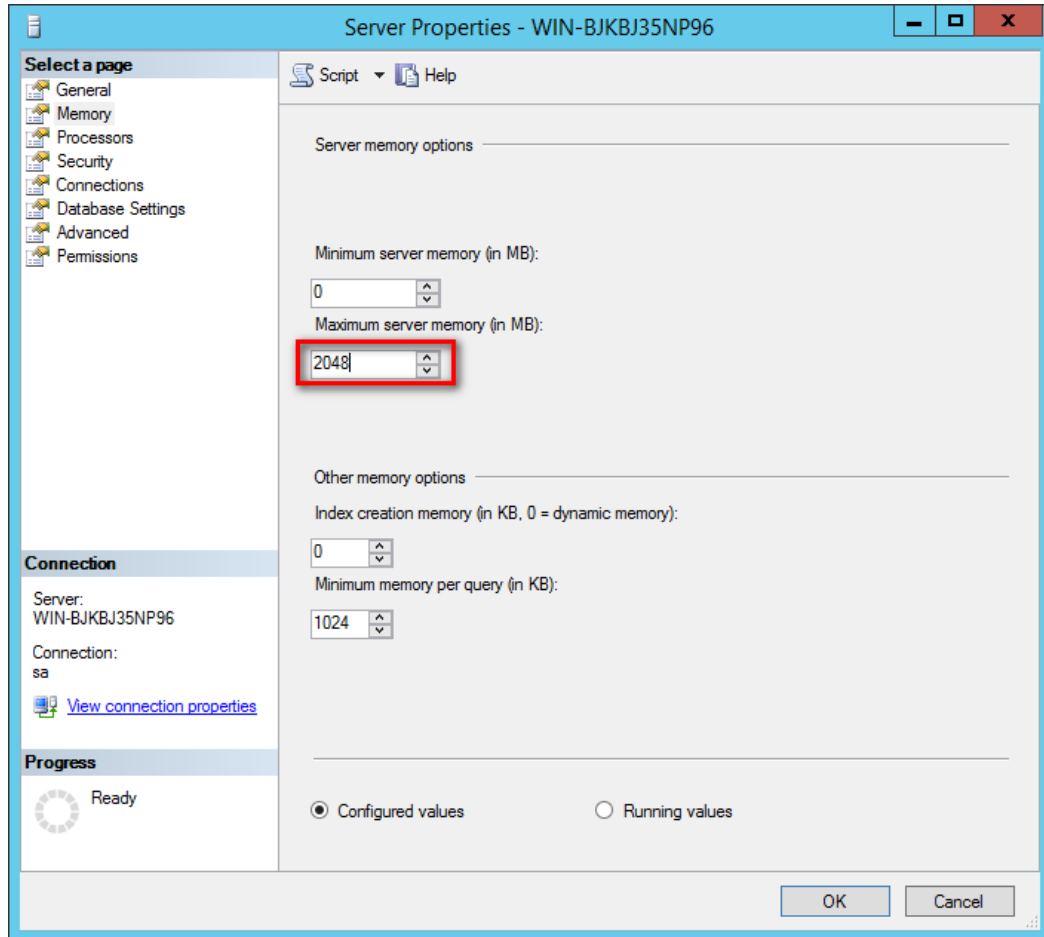
Microsoft SQL Server Management Studio ページが開きます(図47を参照)。

図47 Microsoft SQL Server Management Studio ページ



4. サーバー名を右クリックし、ショートカットメニューのプロパティを選択します。
サーバーのプロパティページが開きます。
5. ナビゲーションツリーで Memory を選択し、サーバーの最大メモリーをサーバーの物理メモリーの半分に設定して、OK をクリックします。この例では、2048MB を使用しています。

図48 SQL Server のメモリオプションの設定



6. オペレーティングシステムを再起動して、変更を検証します。

SQL Serverブラウザサービスの起動

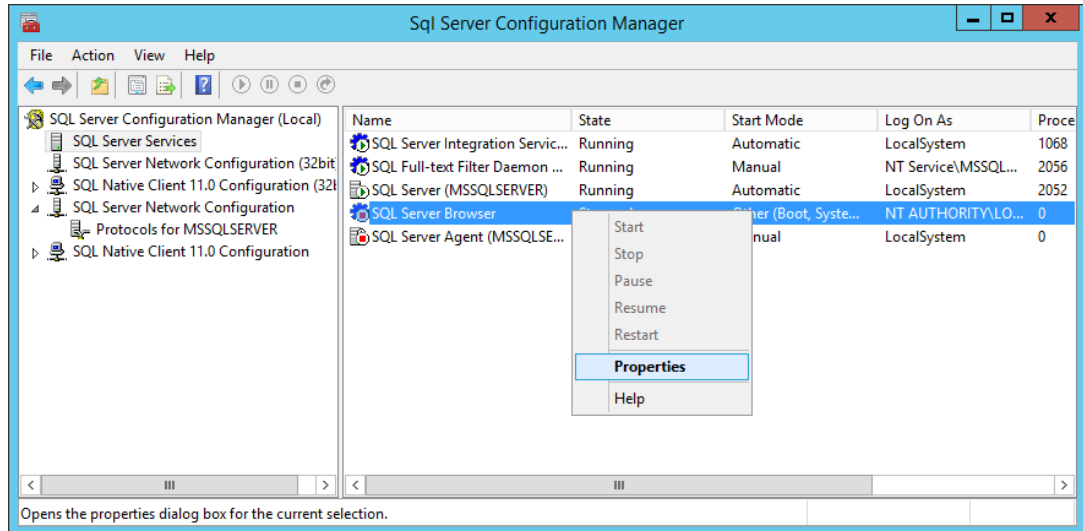
iIMC が SQL Server2012 の名前付きインスタンスに接続できるようにするには、SQL Server のインストール完了後に SQL Server ブラウザサービスを開始する必要があります。

SQL Server インストールプロセス中に SQL Server ブラウザサービスのスタートアップの種類を自動的に設定した場合は、インストールの完了後に SQL Server ブラウザサービスを開始する必要はありません。

SQL Server ブラウザサービスを起動するには、次の手順に従います。

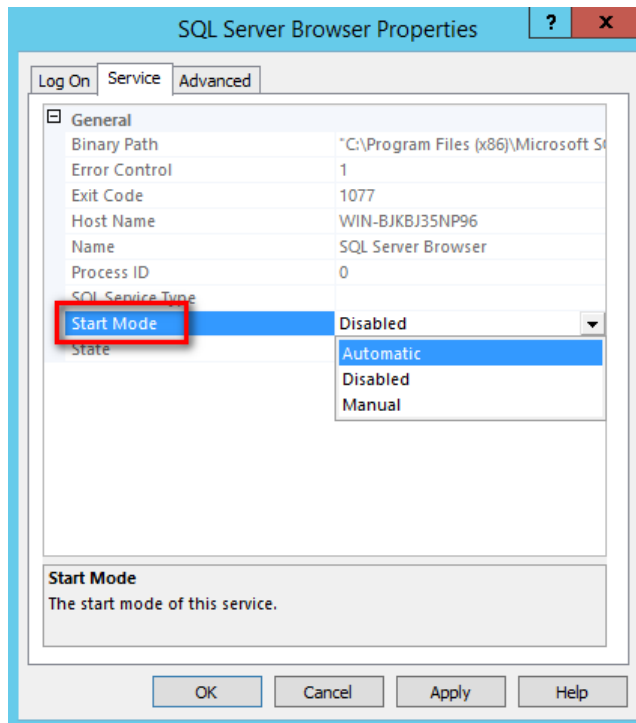
1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > SQL Server Configuration Manager を選択します。
2. ナビゲーションツリーから SQL Server サービスを選択し、メインペインで SQL Server ブラウザを右クリックして、ショートカットメニューからプロパティを選択します。

図49 SQL Server ブラウザのプロパティダイアログボックスの起動



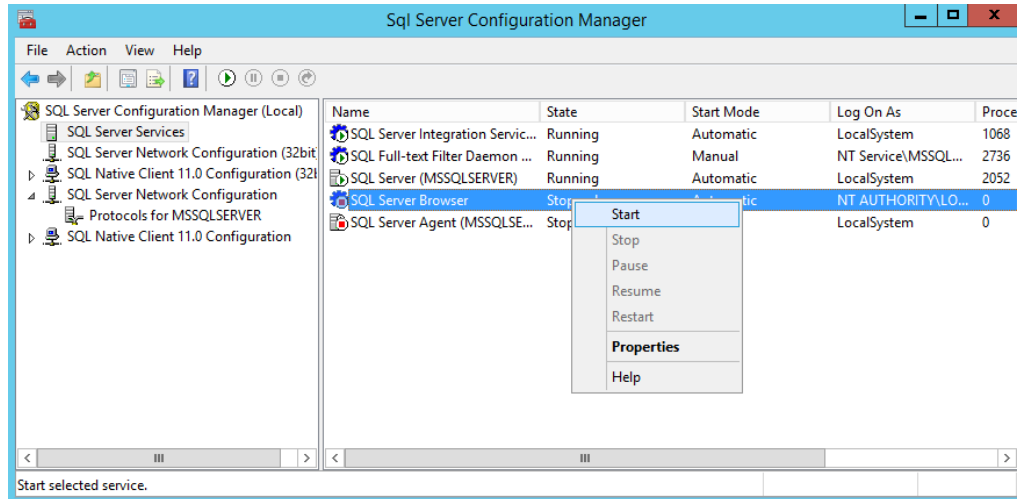
3. サービスタブをクリックし、開始モードで自動を選択します。

図50 SQL Server ブラウザサービスの開始モードの設定



4. 閉じる、をクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。
5. SQL Server ブラウザを右クリックし、ショートカットメニューから開始を選択します。

図51 SQL Server ブラウザサービスの起動



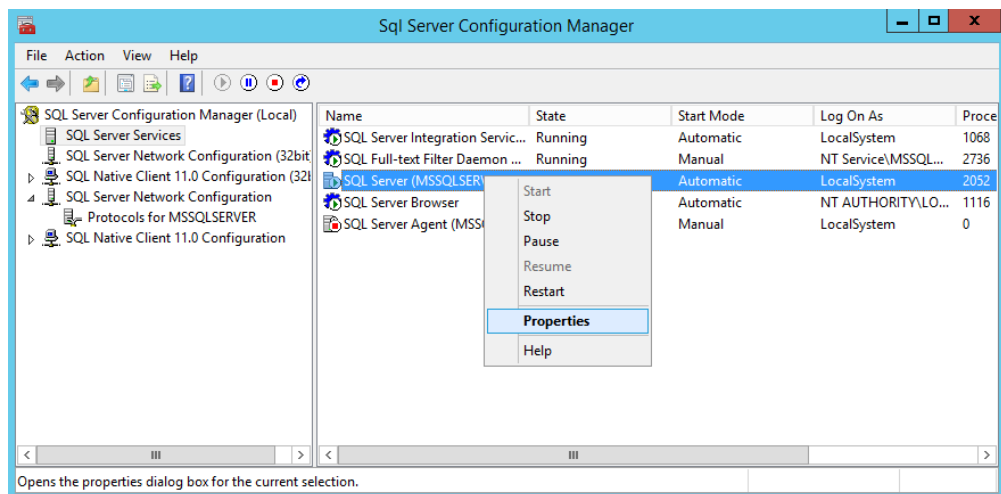
SQL Serverサービス起動アカウントの変更

iMC がリモート SQL Server データベースを使用するようにスーパーユーザーを指定する場合、ユーザーはデータベースサーバー上のすべてのディスクに対する書き込み権限を持っている必要があります。これを保証するには、組み込みのローカルシステムアカウントを使用して SQL Server サービスを起動するように構成する必要があります。

組み込みのローカルシステムアカウントを使用して起動するように SQL Server サービスを構成するには、次の手順に従います。

1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > Configuration Tools > SQL Server Configuration Manager を選択します。
2. ナビゲーションツリーから、SQL Server Services を選択します。
メインペインには、SQL Server によってインストールされたサービスが表示されます(図52を参照)。

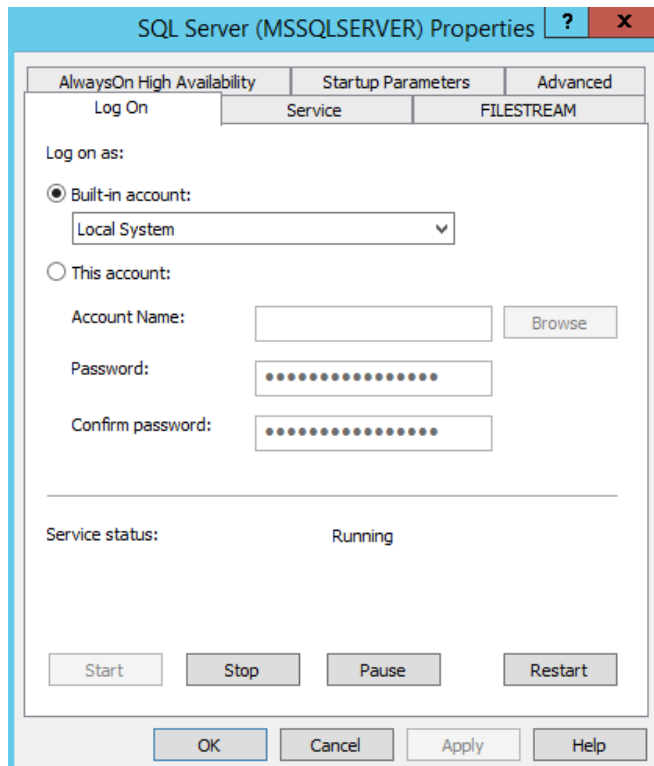
図52 SQL Server によってインストールされるサービス



3. SQL Server サービスを右クリックし、ショートカットメニューからプロパティを選択します。
SQL Server のプロパティダイアログボックスが開きます。

4. ログオンタブをクリックします。
5. ビルトインアカウントリストからローカルシステムが選択されていることを確認します。
6. 閉じる、をクリックします。

図53 ログオンタブ

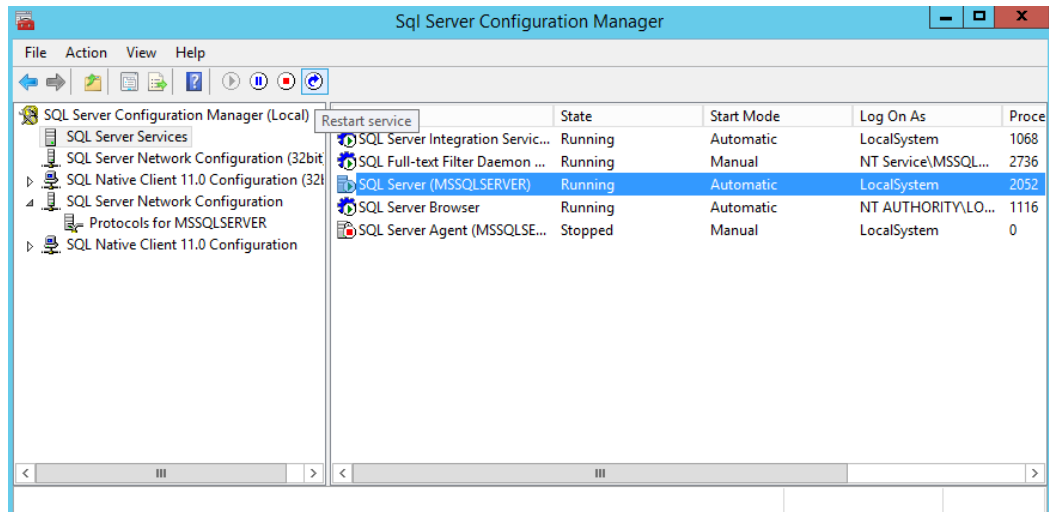


7. SQL Server サービスを再起動して構成を検証します。

SQL Serverサービスの再起動

1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > Configuration Tools > SQL Server Configuration Manager を選択します。
2. ナビゲーションツリーから、SQL Server Services を選択します。
3. メインペインで SQL Server(MSSQLSERVER)を選択します。
4. ツールバーの Restart service アイコンをクリックします(図54を参照)。

図54 SQL Server サービスの再起動



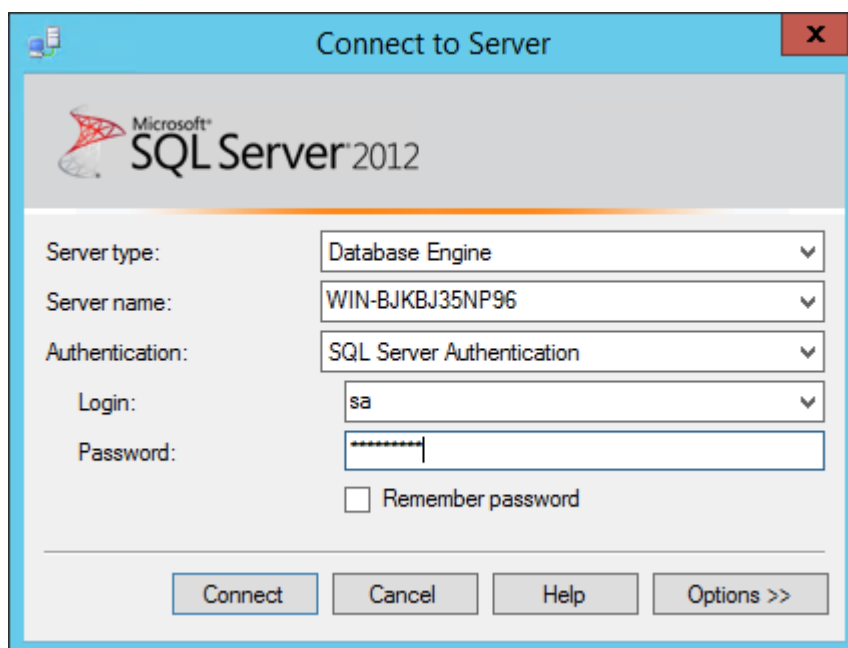
スーパーユーザーの作成

SQL Server データベースには、sa という名前のデフォルトのスーパーユーザーがあります。iMC インストール中にデータベースアクセス用の別のユーザーを指定するには、まずログインユーザーを作成し、SQL Server 上のユーザーに管理者権限を付与します。

スーパーユーザーを作成するには:

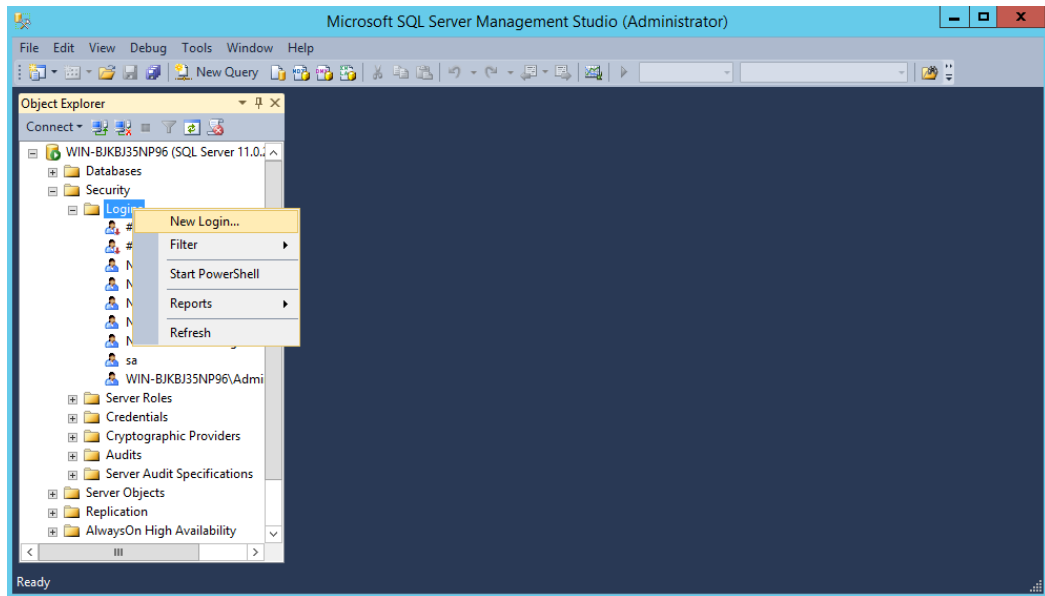
1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > Microsoft SQL Server Management Studio を選択します。データベースログインダイアログボックスが開きます(図55を参照)。

図55 ログインダイアログボックス



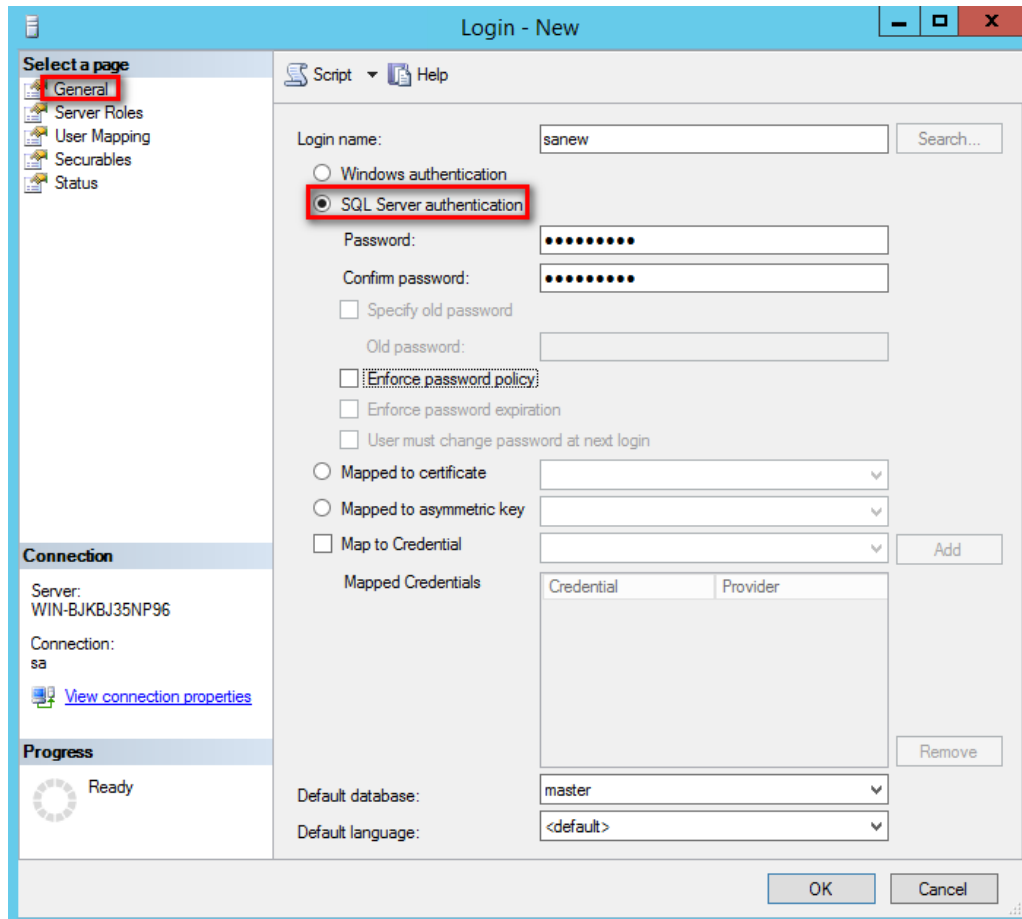
2. 認証で SQL Server 認証を選択し、ログインユーザー名を選択してパスワードを入力し、接続をクリックします。
Microsoft SQL Server Management Studio ページが開きます。
3. ナビゲーションツリーで Security ノードを展開し、Logins を右クリックして、ショートカットメニューから New Login を選択します(図56を参照)。

図56 Microsoft SQL Server Management Studio ページ



ログインユーザーを追加するためのページが開きます(図57を参照)。

図57 ログインユーザーの追加

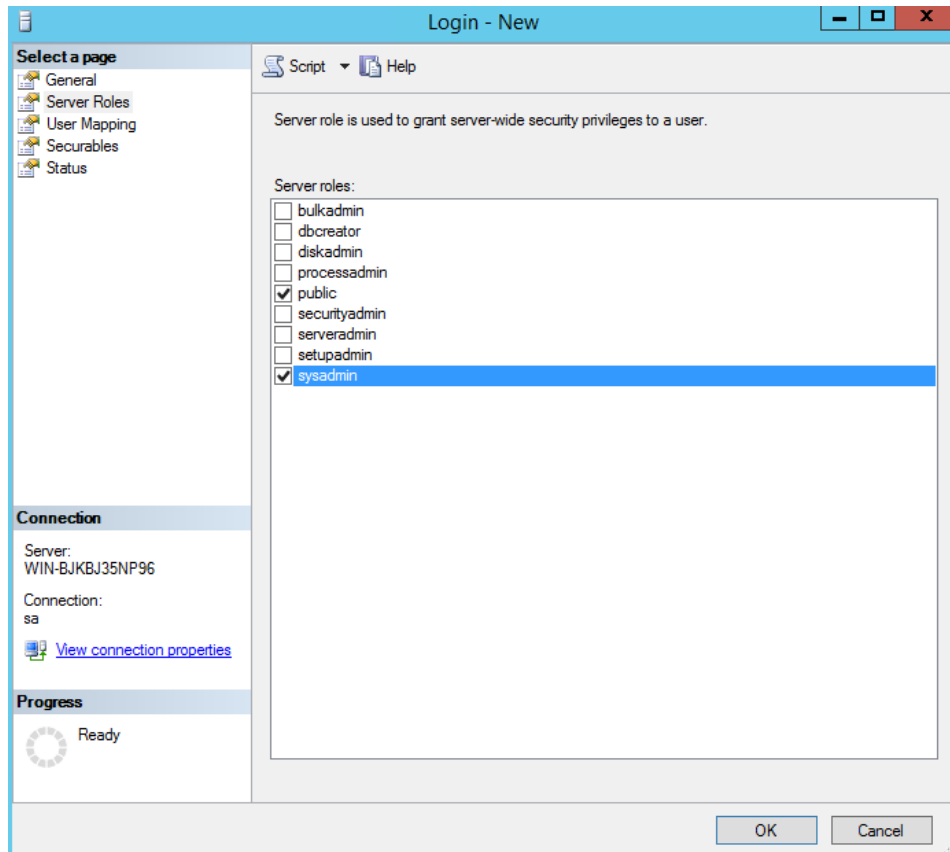


4. 全般ページで、ログイン名を入力し、SQL Server 認証をクリックしてパスワードを設定し、次回ログイン時にユーザーがパスワードを変更する必要がある、をオフにします。

iMC がパスワードを正しく識別できるように、パスワードに次の文字が含まれていないことを確認してください。

- 左山カッコ(<)
 - 右山カッコ(>)
 - 縦棒(|)
 - タブ(\t)
5. ナビゲーションツリーで、サーバーロールを選択します。

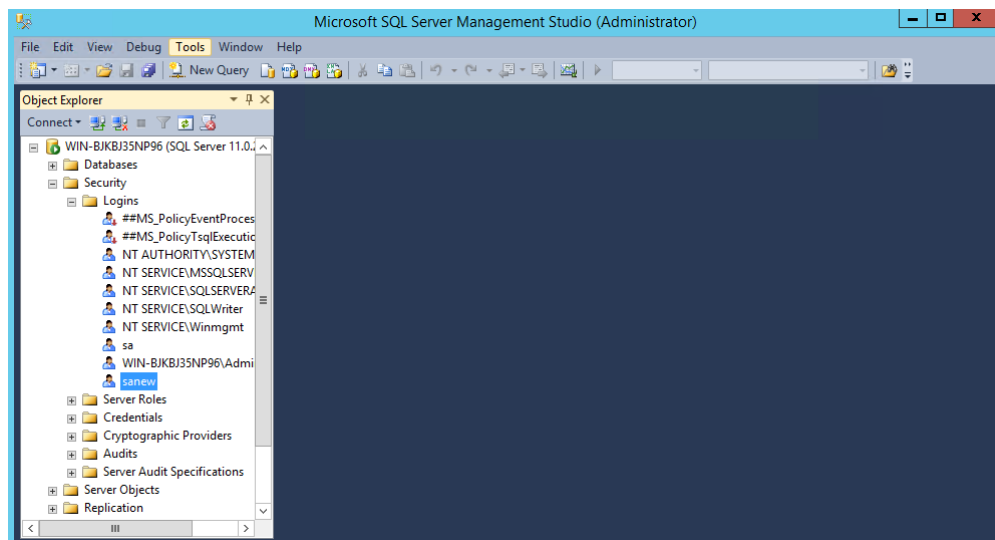
図58 サーバーロールの設定



6. sysadmin を選択し、OK をクリックします。

ユーザーにはデータベース管理者権限が付与され、Microsoft SQL Server Management Studio のナビゲーションツリーのセキュリティ > ログインノードに表示されます。

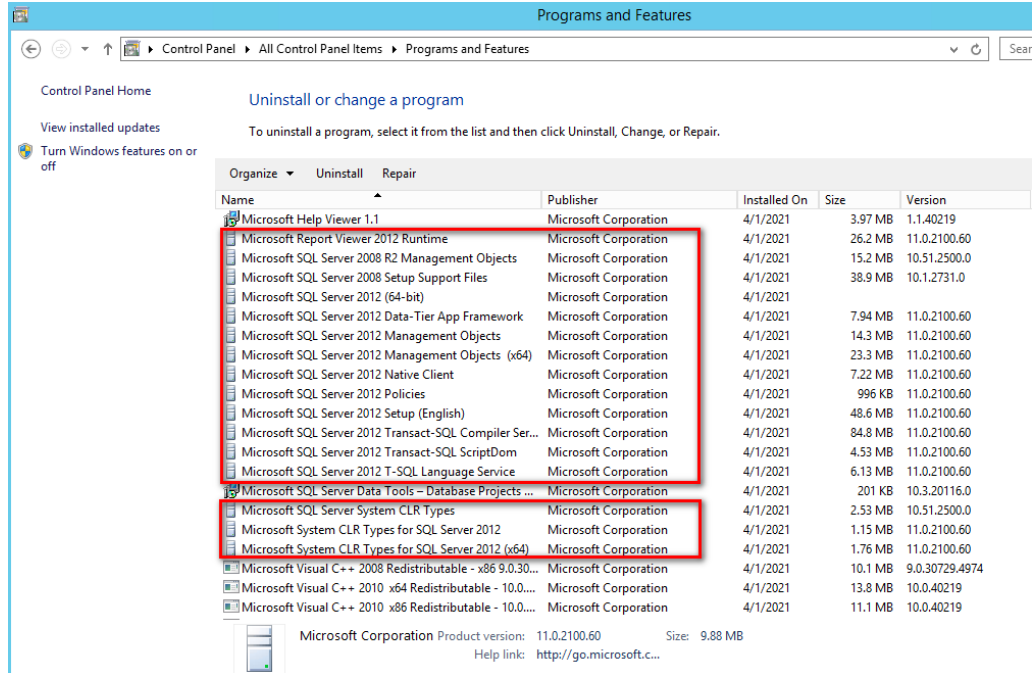
図59 新しいユーザーの表示



SQL Server2012 のアンインストール

1. スタート > コントロールパネル > プログラムのアンインストールと変更 > アンインストールと変更、を選択します。
2. Microsoft SQL Server2012(64ビット)を選択し、アンインストール、をクリックします。
同じ手順に従って、図60に示す赤いボックスに表示されている他のプログラムをアンインストールします。

図60 Uninstall/Change 機能を使用した SQL Server2012 のアンインストール



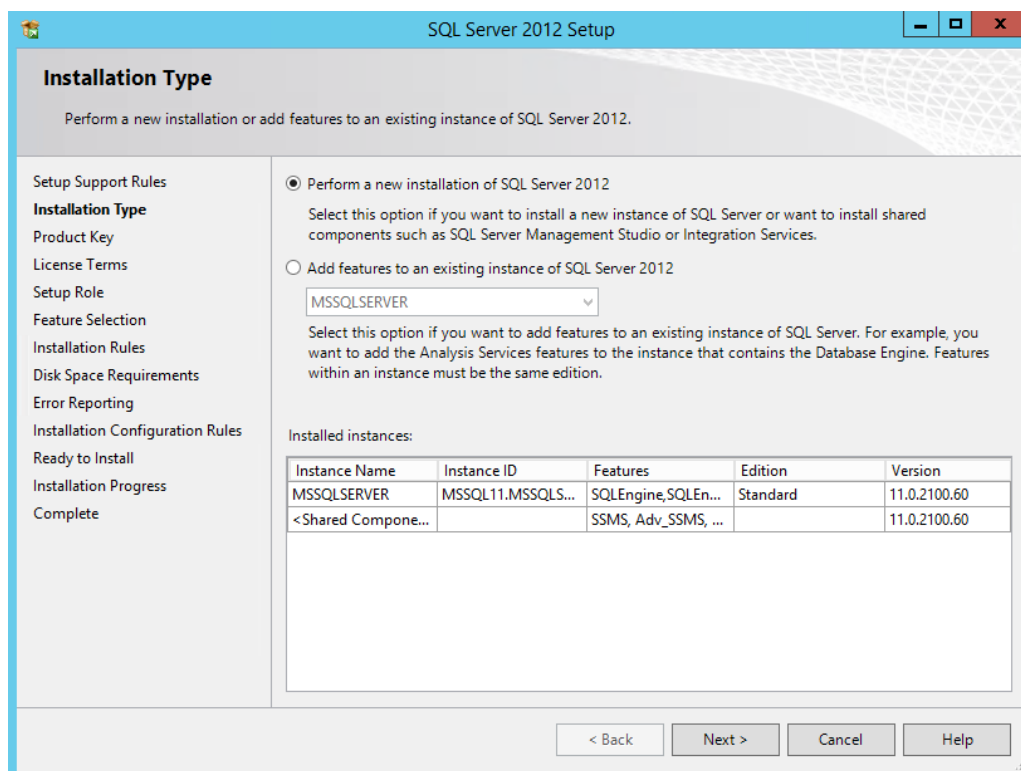
よくある質問

データベースのデフォルトインスタンスは別のアプリケーションで使用されます。名前付きインスタンスを使用してデータベースをインストールする方法は？

名前付きインスタンスを使用する場合のインストール手順は、デフォルトインスタンスを使用する場合のインストール手順に似ています。次の情報は、相違点のみを示しています。

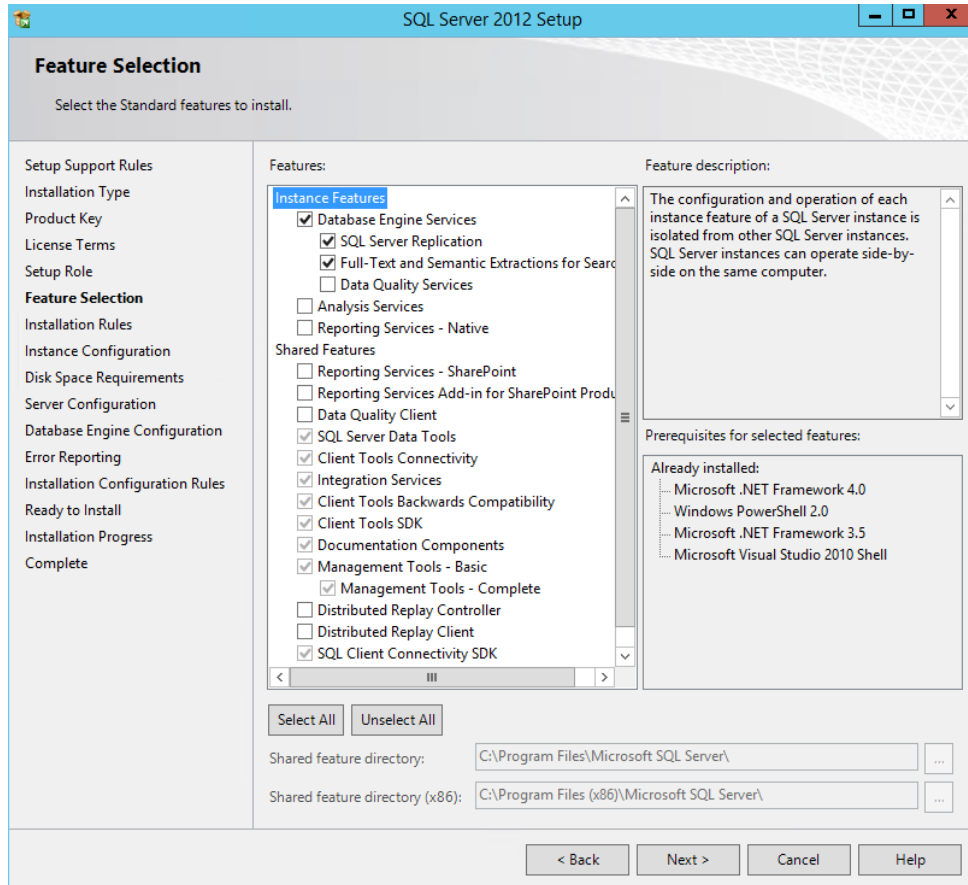
1. Setup Support Rules チェックが完了したら、Next をクリックします。
Installation Type ページが開きます(図61を参照)。

図61 Installation Type ページ



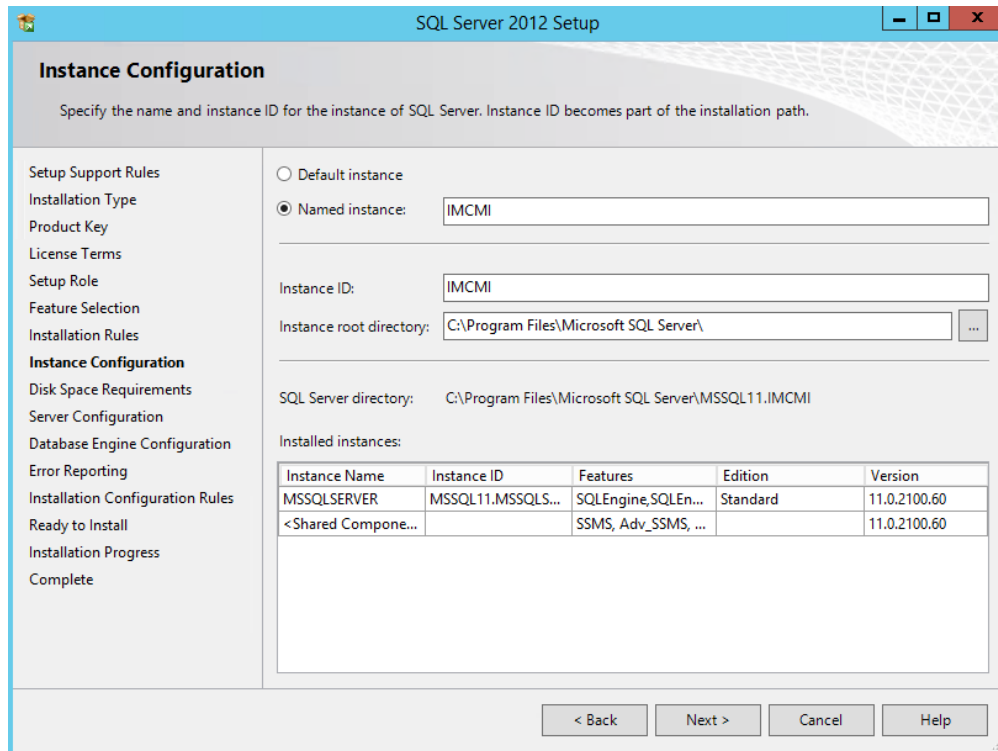
2. 新規インストール、または共有機能の追加を選択し、次へ、をクリックします。
3. プロダクトキーを入力し、ライセンス条項に同意してから、セットアップロールを選択します。
Feature Selection ページが開きます。

図62 Feature Selection ページ



4. 図62に示すフィーチャーを選択し、次へ、をクリックします。
Instance Configuration ページが開きます(図63を参照)。

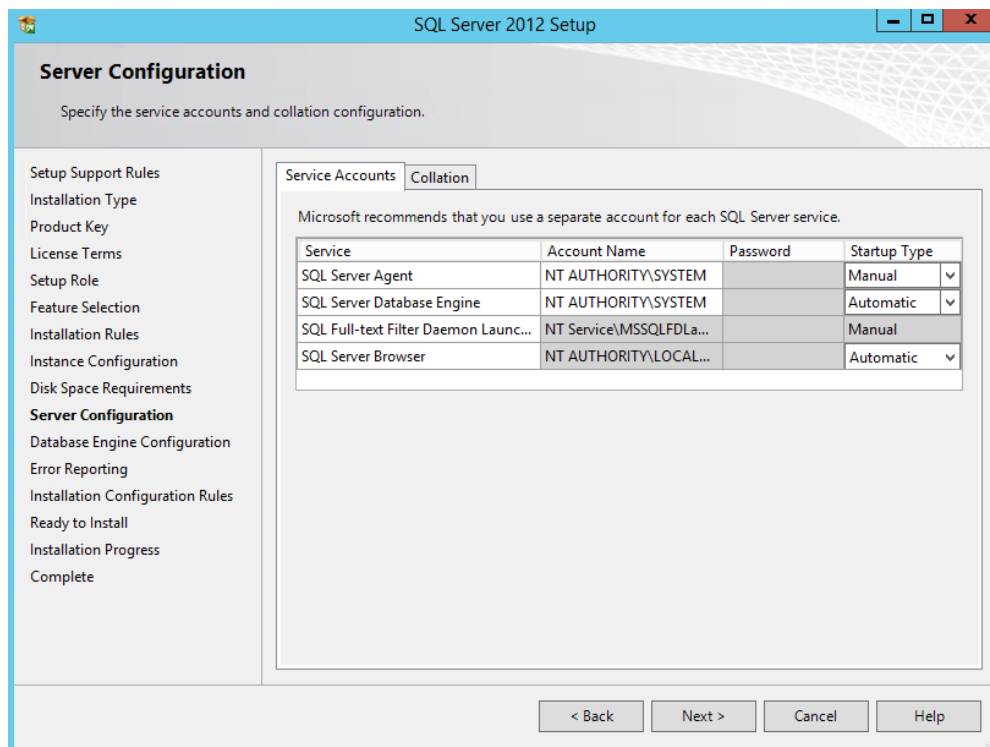
図63 Instance Configuration ページ



- 名前付きインスタンスを選択してインスタンス名を入力し、Instance root directoryを設定して Next をクリックします。

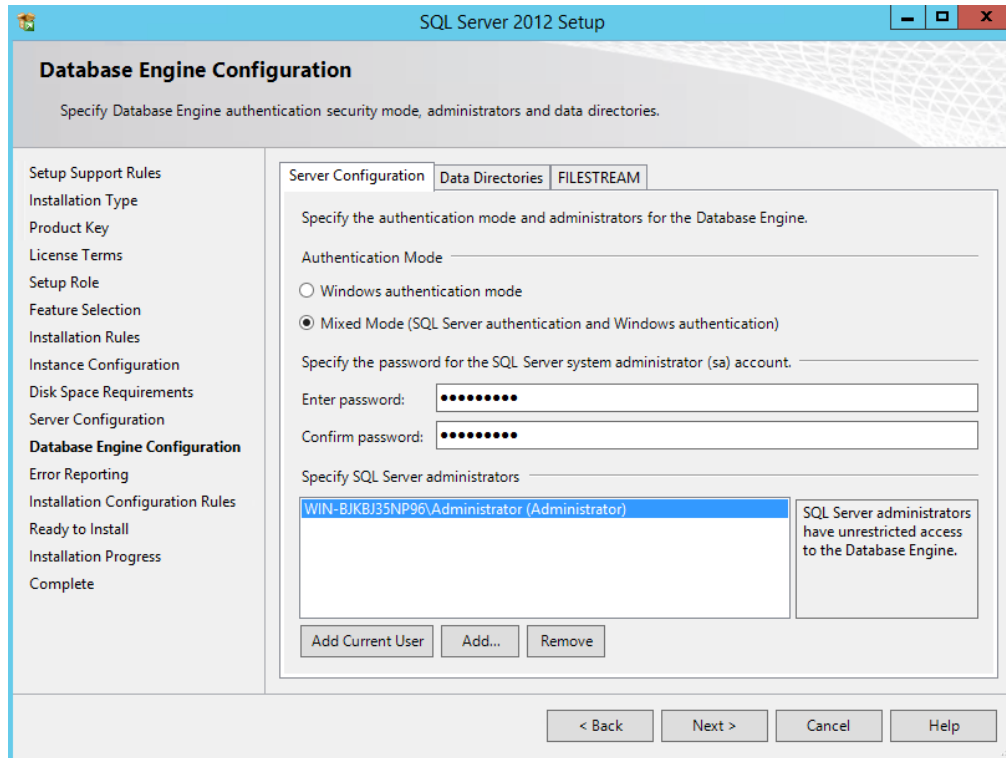
Server Configuration が開きます。

図64 Server Configuration ページ



6. 図65に示す SQL Server サービスのアカウント名を設定し、Next をクリックします。
Database Engine Configuration ページが開きます(図65を参照)。

図65 Database Engine Configuration ページ



7. 認証モードで混合モードを選択し、ユーザーsa のパスワードを入力します。パスワードに次の文字が含まれていないことを確認してください。
- 左山カッコ(<)
 - 右山カッコ(>)
 - 縦棒(|)
 - タブ(\t)

データディレクトリーData FILESTREAM タブのデフォルト設定を使用します。次の設定手順は、デフォルトインスタンスの場合と同じです。

コンピュータ名の変更はデータベースに影響しますか?データベースを復元する方法は?

SQL Server を実行しているコンピュータの名前を変更すると、データベース操作が失敗する場合があります。

データベースに保存されているコンピュータ名を更新するには、次の手順を実行します。この例では、古いコンピュータ名は SERVER_1 で、新しいコンピュータ名は SERVER_2 です。

1. CMD ウィンドウを開き、次のスクリプトを実行します(ログインユーザー名は sa、パスワードは iMCpass)。

```
osql -Usa -PIMCpass
select @@SERVERNAME
go
```

インタフェースに古いコンピュータ名 SERVER_1 が表示されます。

2. 次のコマンドを実行して、データベースに保存されているコンピュータ名を変更します。

```
sp_dropserver @server='SERVER_1', @droplogins=NULL
```

```
go
sp_addserver @server='SERVER_2', @local='local', @duplicate_ok= 'duplicate_OK'
go
exit
```

古いコンピュータ名 SERVER_1 が削除され、新しいコンピュータ名 SERVER_2 が追加されます。

3. データベースを復元するには、Windows サービスマネージャで SQL Server サービスを再起動します。

iMC のインストール中に、MS SQL Server is not Installed Correctly, MS SQL SERVER Service does not exist というメッセージが表示されます。この問題を解決するにはどうすればよいですか。

MSSQLSERVER 文字列は、Microsoft SQL Server のデフォルトインスタンス名です。このメッセージは、デフォルトインスタンスを選択したが、インスタンスが存在しないことを示しています。デフォルトインスタンスを選択せずにインスタンス名 ABC を指定すると、MSSQL\$ABC が表示されます。

この問題を解決するには、SQL Server Configuration Manager でデフォルトのインスタンス名をチェックし、iMC のインストール中に正しいインスタンス名を指定します。

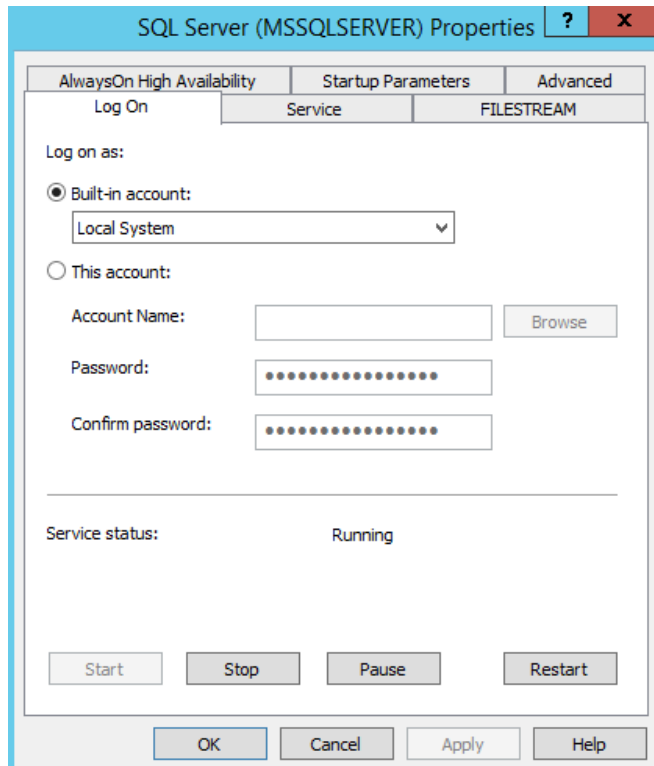
iMC のインストール中に、Database Service MS SQL SERVER Is not Configured to Be Started with Local System というメッセージが表示されます。この問題を解決するにはどうすればいいですか。

iMC 用のデータベースファイルを作成するには、MSSQLSERVER サービスをローカルシステムで開始し、ローカルディスクへの書き込み権限を持っている必要があります。そうでない場合、iMC をインストールできません。

この問題を解決するには、次の手順に従います

1. スタート > すべてのプログラム > Microsoft SQL Server2012 > Configuration Tools > SQL Server Configuration Manager を選択します。
2. SQL Server 構成マネージャで、SQL Server(MSSQLSERVER)を右クリックし、プロパティを選択します。
3. プロパティダイアログボックスのログオンタブで、ビルトインアカウントを選択し、一覧からローカルシステムを選択します。

図66 プロパティダイアログボックス



4. 閉じる、をクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。
5. SQL Server サービスを右クリックし、再起動を選択します。

iMC のインストール中に、ADO1.5 コンポーネントが現在のシステムに見つかりません。問題を解決するには?というメッセージが表示されます。

iMC は ADO1.5 を使用してデータベースに接続します。ADO1.5 はオペレーティングシステムによって提供されます。

このメッセージは、ADO1.5 が破損していることを示します。この問題を解決するには、ホストに ADO を再インストールしてください。

iMC のインストール中に、プロバイダが見つかりません。問題を解決するにはどうすればよいですか?というメッセージが表示されます。

このメッセージは、MDAC がサーバーにインストールされていないか、MDAC のインストールが破損していることを示します。MDAC の破損は通常、アプリケーションプログラムが MDAC の部分バージョンをインストールしようとしたときに発生します。

この問題を解決するには、Microsoft Web サイトからインストールプログラム mdac_typ.exe をダウンロードし、MDAC を再インストールします。MDAC のインストールが失敗した場合は、次の手順を実行してください。

1. Windows エクスプローラで、C:\WINDOWS\inf フォルダを開きます。このフォルダは非表示になっている可能性があります。
2. mdac.inf ファイルを右クリックし、インストールを選択します。
Service Pack CD または現在のオペレーティングシステムからファイルを選択できます。
 - Service Pack CD からファイルを選択するには、CD ドライブから i386 ディレクトリを探します。たとえば、CD ドライブが D の場合は、ディレクトリ D:\i386 を選択します。

- 現在のオペレーティングシステムからファイルを選択するには、参照をクリックしてファイルを選択し、再試行をクリックします。

インストール中に、次のファイルを配置する必要があります。

- ファイル名:adccoffee.inc
場所:C:\Program Files\Common Files\System\msadc
- ファイル名:adochambers.inc
場所:C:\Program Files\Common Files\System\ado
- ファイル名:msdadc.dll
場所:C:\Program Files\Common Files\System\ole db
- ファイル名:dao360.dll
場所:C:\Program Files\Common Files\Microsoft shared\dao
- ファイル名:handler.reg
場所:C:\Program Files\Common Files\System\msadc
- ファイル名:oledbjvs.inc
場所:C:\Program Files\Common Files\System\ole db
- ファイル名:MDACRdMe.htm
場所:このファイルが見つからない場合は、ファイル MDACReadme.htm の名前を MDACRdMe.htm に変更します。

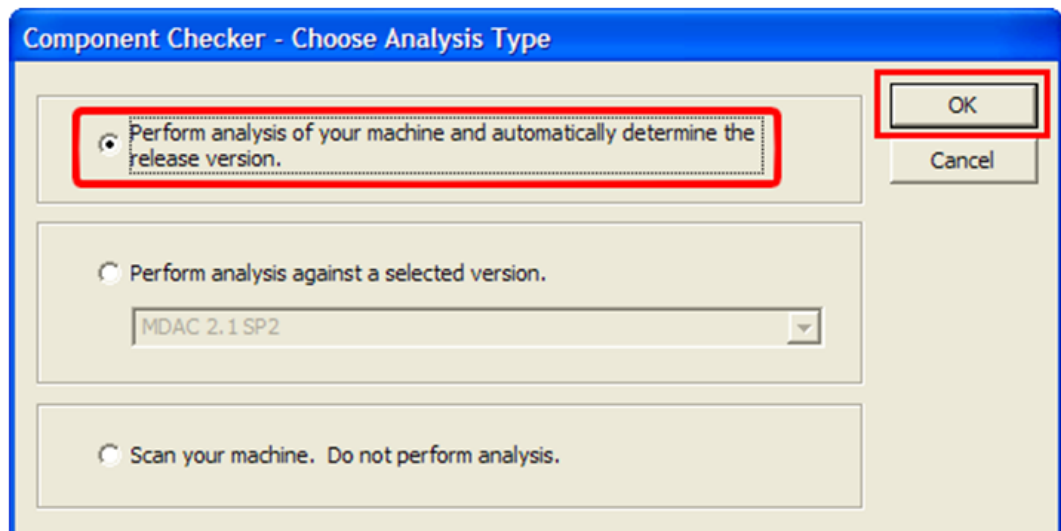
3. インストールが完了したら、オペレーティングシステムを再起動します。

注:

エラーメッセージが表示されない場合、MDAC のインストールは成功しています。

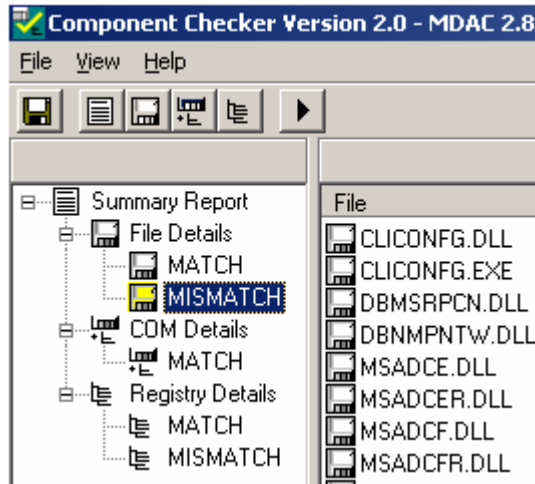
5. 問題が解決しない場合は、MDAC コンポーネントチェッカーを使用して MDAC インストールの問題を特定します。
 - a. MDAC Component Checker cc_pkg.exe を Microsoft Web サイトからダウンロードします。
 - b. ファイルを C:\ComponentChecker ディレクトリに解凍します。
 - c. コンポーネントチェッカーダイアログボックスで、最初のオプションを選択し、OK をクリックします。

図67 コンポーネントチェッカーダイアログボックス



解析の実行後、不一致情報が「ファイルの詳細」に表示されます。この情報は、MDAC のインストールに潜在的な問題があることを示しています。

図68 ファイルの詳細の下の情報が一致しません



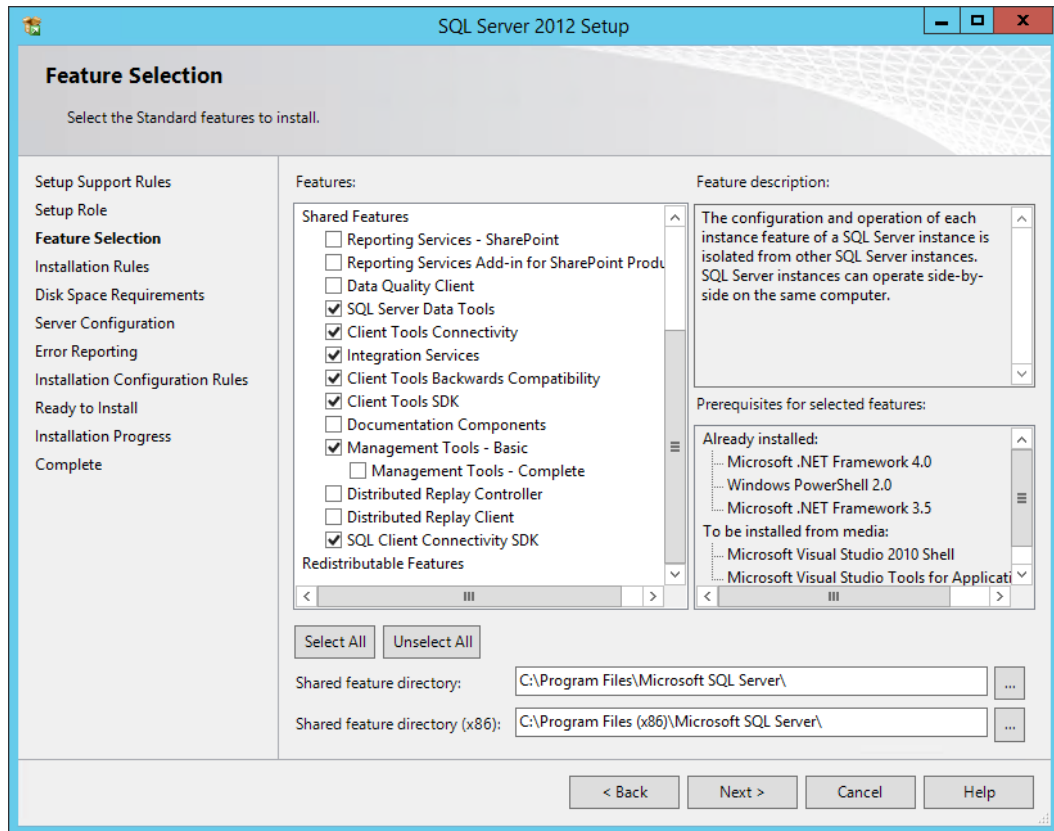
- d. MISMATCH をクリックして、メインペインにファイルを表示します。これらのファイルバージョンは MDAC バージョンとは異なります。
 - 不一致フィールド列には、予想されるファイルバージョンが表示されます。
 - ファイルバージョン列には、実際のファイルバージョンが表示されます。
6. バージョンの不一致情報を MDAC インストールで解決できない場合は、対応するディレクトリにファイルをコピーします。
 - a. 解凍ファイル mdac_typ.exe から mdacxpak.cab ファイルを見つけ、WinZip を使用して mdacxpak.cab ファイルを解凍します。このファイルには、重要な MDAC ファイルのほとんどが含まれています。
 - b. 解凍されたファイルを MISMATCH に表示されている対応するパスにコピーします。
 - c. オペレーティングシステムを再起動します。
7. 問題を解決できない場合は、オペレーティングシステムとデータベースを再インストールするか、ハードウェアサポートに連絡してください。

iMC のインストール中に、bcp.exe の実行に失敗しました。データベースツールがインストールされていません。または MS SQL Server のインストール後に Windows が再起動されていません。問題を解決するにはどうすればいいですか?というメッセージが表示されます。

iMC では、bcp.exe ツールを使用してリモートデータベースサーバーにアクセスする必要があります。問題を解決するには、次のいずれかの方法を選択します。

- 方法 1:に示すように、クライアントツールを SQL Server クライアントにインストールします。インストール後にクライアントソフトウェア bcp.exe を有効にするには、Windows を再起動します。

図69 Feature Selection ページ



- 方法 2:に示すように、iMC サーバーに ODBC ドライバと MS SQL Cmd Utility をダウンロードしてインストールするには、<https://www.energyen-us/download/details.aspx?id=52676> にアクセスしてください。

図70 ODBC ドライバと MS SQL Cmd ユーティリティのダウンロード

Choose the download you want

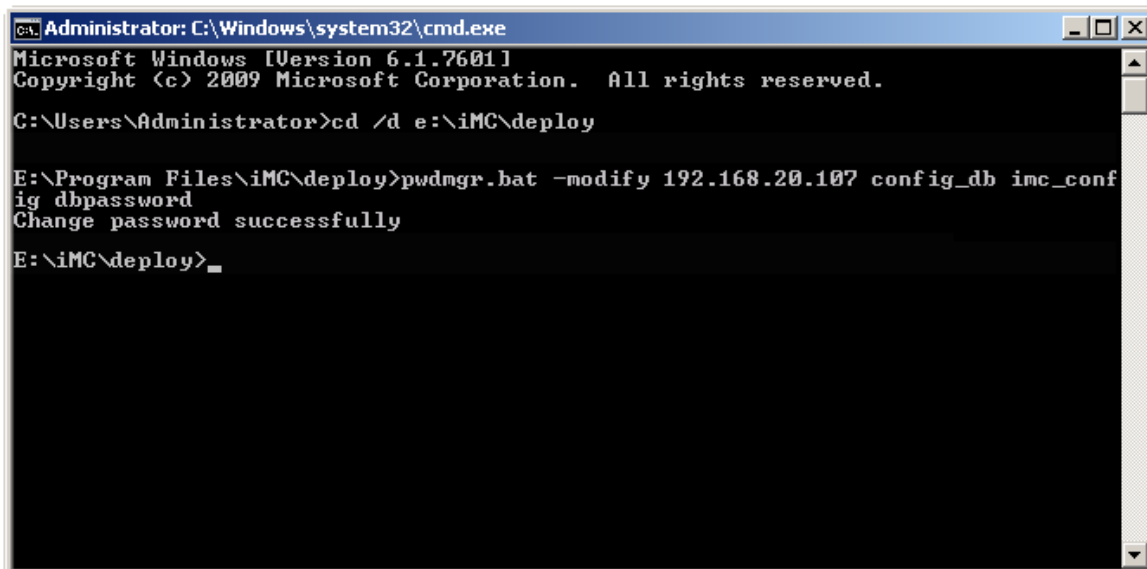
<input type="checkbox"/> File Name	Size
<input type="checkbox"/> MasterDataServicesExcelAddin.msi	2.9 MB
<input type="checkbox"/> msodbcsql.msi	2.6 MB
<input checked="" type="checkbox"/> msodbcsql.msi	4.1 MB
<input type="checkbox"/> MsSqlCmdLnUtils.msi	2.2 MB
<input checked="" type="checkbox"/> MsSqlCmdLnUtils.msi	2.4 MB
<input type="checkbox"/> PowerShellTools.msi	2.6 MB
<input type="checkbox"/> ...	

iMC のデータベースパスワードを更新する方法は？

データベース管理ツールを使用して iMC コンポーネントのデータベースパスワードを変更した後、pwdmgr.bat を実行して、iMC サーバー上の server-addr.xml ファイルのパスワードを更新します。このファイルは、iMC インストールパスの\common\conf ディレクトリにあります。このファイルには、暗号文内のすべての iMC コンポーネントのデータベースパスワードが格納されています。

次の例では、データベースの IP アドレスとして 192.168.20.107 を使用します。dbpassword 文字列は imc_config ユーザーの新しいデータベースパスワードを表します。config_db 文字列はデータベース名を表します。データベースの IP アドレスと名前は server-addr.xml ファイルから取得できます。

図71 iMC のデータベースパスワードの更新



```
Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>cd /d e:\iMC\deploy

E:\Program Files\iMC\deploy>pwdmgr.bat -modify 192.168.20.107 config_db imc_config dbpassword
Change password successfully

E:\iMC\deploy>
```

iMC が分散モードで配置されている場合は、すべての iMC サーバーでデータベースパスワードを更新する必要があります。

Microsoft Gold Standard サーバーに SQL Server をインストールできない理由

Microsoft Gold Standard サーバーに SQL Server をインストールするには、表1に示すように、SQL Server をインストールする適切な権限を持つシステムユーザであることを確認してください。

表1 ユーザー権限

ローカルポリシーオブジェクトの表示名	ユーザー権限
バックアップファイルとディレクトリ	SeBackupPrivilege
プログラムのデバッグ	SeDebugPrivilege
監査ログとセキュリティログの管理	セキュリティ特権